

第2章 さくら市の生涯学習の現状と課題

第1節 さくら市の地域特性と歴史

1 さくら市の地域特性

(1) 市の位置と地域特性

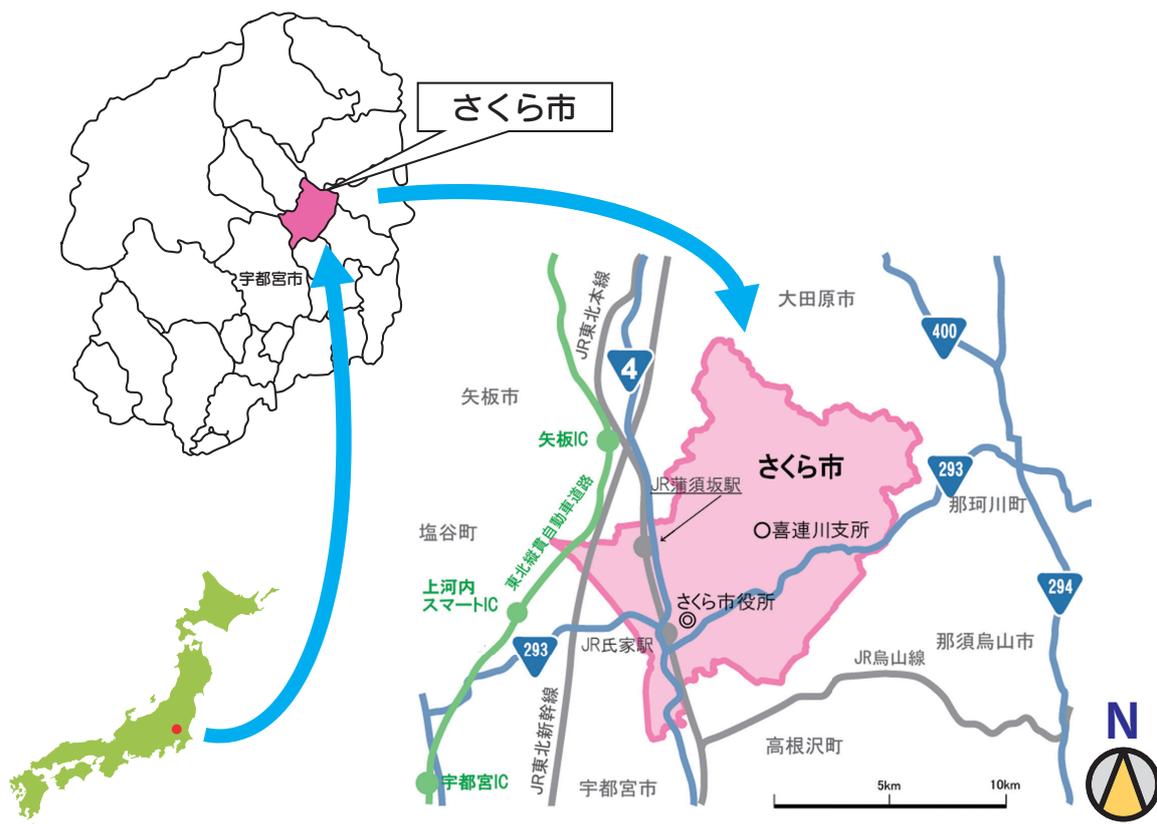
さくら市は、栃木県中央部のやや北東よりで、県都宇都宮市に近接し、東京からは直線距離で110km～125km 圏内に位置しており、新幹線と在来線の鉄道利用であれば1時間30分、高速道路利用であれば2時間という好アクセスです。首都東京や京浜地区と東北地方を結ぶ東北縦貫自動車道路、国道4号、JR東北本線等の主要な国土連携軸上にあります。

氏家地区は、関東平野の最北部に位置し、鬼怒川沿いのほぼ平坦な水田地帯にあり、喜連川地区は、関東平野と那須野ヶ原台地との間の数条の丘陵と水田地帯からなり、清流と緑の自然に恵まれた地域です。

さくら市は南北が17.8km、東西は15.6kmで、総面積125.63km²で県土の1.96%になり、その内農地が44.2%、山林が20.8%を占めています。

さくら市は栃木県で13番目に発足した市で、人口規模では12番目となります。

市役所の位置	緯度 北緯 36度 41分 07秒
	経度 東経 139度 57分 59秒



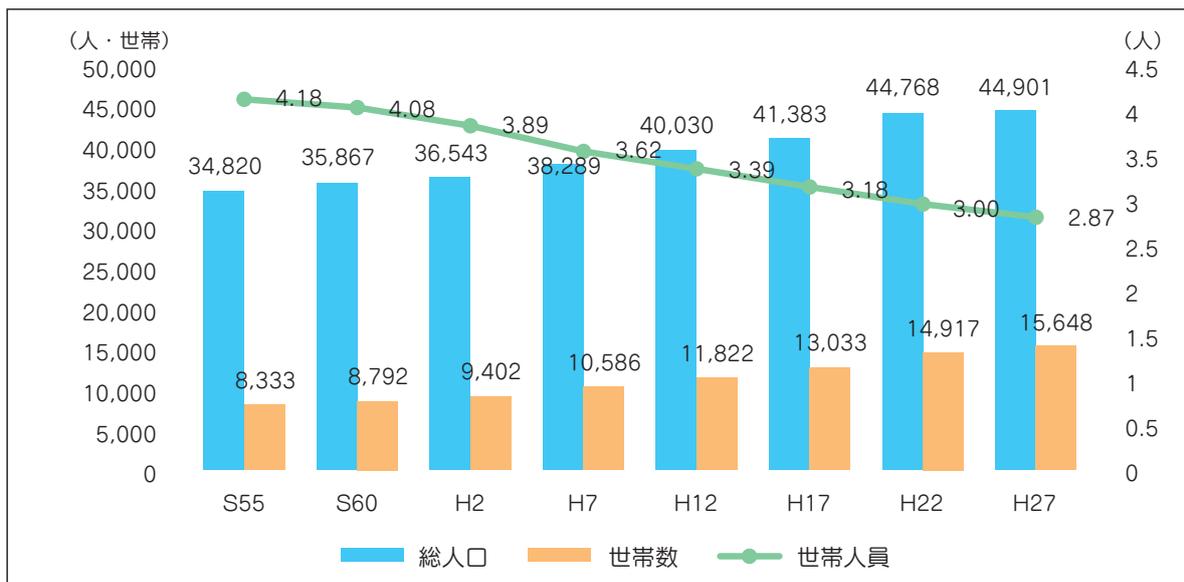
(2) 人口

本市の平成 27 年 10 月 1 日現在の人口は、44,901 人で、平成 17 年 3 月 28 日のさくら市誕生以来、増加傾向となっています。特に、平成 17 年から平成 22 年では約 3,000 人増加していますが、ここ数年は、ほぼ横ばいとなっています。

一方、世帯は核家族化、少子化等が進み、1 世帯あたり人数は、昭和 55 年の 4.18 人から平成 27 年の 2.87 人に落ち込んでいます。

さくら市の人口ビジョンによると、今後は、横ばいから徐々に減少傾向に転じると推察されており、人口減少の抑制や人口減少社会に対応する取り組みが行われています。

■さくら市の人口・世帯数の推移



(3) 産業

さくら市は鬼怒川の左岸に位置し、肥沃な土壤に恵まれていることから県内有数の穀倉地帯として発展してきました。現在は、米をはじめ、りんごやいちご、野菜、鮎、キノコなど多くの特産品が生産されています。また、市の東部は丘陵部からなる緑豊かな地域が広がり、温泉やゴルフ場、鮎釣りなどの魅力ある観光地ともなっています。



産 業



交 通

さらに、温暖な気候と豊富な水に恵まれていることや交通アクセスの良さから、企業立地や産業集積が進み、自動車関係・食品関係の企業を中心として操業しています。

さくら市では、農業・工業・商業のバランスの良さを保ちつつ、更なる発展が期待される産業基盤づくりを進めるとともに、社員の方々にとっても住みよいまちづくりに取り組んでいます。

2 さくら市を育んだ学びと歴史

さくら市は2005（平成17）年3月に旧氏家町（以下「氏家」）と旧喜連川町（以下「喜連川」）の合併により誕生しました。市名は市民から公募し、「桜の花のように美しいまちに」と願いを込めてつけられました。さくら市には、勝山城跡、お丸山公園、鬼怒川や早乙女の桜、古代の幹線道路東山道に咲くさくら市指定天然記念物の「將軍桜」、そして古くから「櫻野」と呼ばれ歴史と文化の数多く残る地もあります。

首都圏から120km圏内、1時間程度で訪れることから、通勤圏内として居住地、ゴルフ場、道の駅きつれがわと温泉や日帰りレジャーの地ともなっています。さくら市の名前だけ見ると、新しい土地のように見えますが、実は道と河川をキーワードとする歴史と文化の深い市です。



あらかわ
荒川

(1) 川と道から育まれた歴史と文化

氏家と喜連川の地名は両方とも川に関係しています。たくさんの川や湧水のある氏家は、上空から見ると、川に挟まれ中州のようにも見えます。そのため、川の「内」にある中州である「江」、「内江」がなまって氏家になったと推測されています。この氏家の地名は古く、平安時代中期に編さんされた「和名類聚鈔」に書かれています。

喜連川は地内を流れ、氾濫の多い荒川を地元で狐川と呼び、それが後年喜連川になったと伝わります。1601（慶長6）年に前田利家の義理の甥である前田慶次が書いた「前田慶次道中記」に、地元の人に「狐河」の由来を尋ねたところ、「喜連川」と書き、昔この里に御所を作り始めた時に将来を祝して喜び連なる川と書いたと答えたとあります。

さくら市の歴史と文化を育くむもう1つが、交通です。

古代において、房総半島や東北から影響を受けた土器、高原山や長野産の黒曜石の石器が遺跡より出土しています。太古より豊かなこの土地で暮らしながら、盛んに交易を行っていたことも分かります。

古墳時代から水と農作物に恵まれた土地に、奈良平安時代になると、都からの幹線道路東山道が通ります。さくら市と那須烏山市にまたがる、古代の交通や物流を統括する郡役所と道、国指定史跡の長者ヶ平官衙遺跡附東山道跡により、まちの発展も見られます。

武家の時代である中世において、交通網の更なる整備によって商業、物流が発展します。そして、宇都宮氏の一門として勝山城を拠点として統治する氏家氏と、那須氏の一門として喜連川の大蔵ヶ崎城を拠点とする塩谷氏より、氏家と喜連川それぞれの歴史が形成されていきます。

(2) 学びあいのはじまり



きぬがわ
鬼怒川

中世末期、1597（慶長2）年豊臣秀吉の命による宇都宮氏改易の影響を受けた氏家の勝山城の廃城と豊臣秀吉と北条氏直の激突となる小田原の戦いにおいて、北条方についた喜連川塩谷氏の敗走で、両地区の中世は幕を閉じます。

そして近世に入り、徳川家康によって、1601（慶長6）年参勤交代制や商品輸送のために整備された五街道（東海道、中仙道、日光道中、奥州道中、甲州道中）のうち奥州道中によって、氏家と喜連川も宿場町、城下町としてまちを育んでいきます。

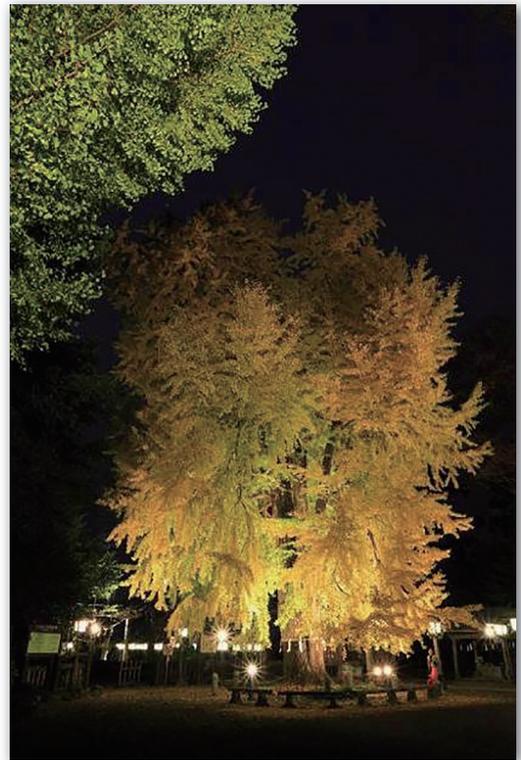
鬼怒川舟運の最終地点となる阿久津河岸と東北を結ぶ奥州道中、会津中街道、会津西街道、原方街道の分岐点のあることから、江戸や奥州の文物が氏家に一堂に集まります。そして、多種多様な当時最新の文化も入ってきます。これが、氏家の学びあいの歴史につながっていきます。

江戸時代末期、俳諧（後の俳句）結社、卯の花連による今宮神社や堂原地蔵堂に奉納されたさくら市指定文化財の句額や冊子「わらへな里」に、武士、町人、老若男女と身分を超えた人々のいきいきとした作品が並びます。そこには、身の回りに目を向け、切磋琢磨しながら句を作る様を見て取れます。

日光東照宮陽明門などの彫刻の影響と、物流で隆盛した氏家宿、阿久津河岸、喜連川宿に、豪華な彫刻屋台が作られます。そして、現在まで地域の人々によって大切に保存されています。

喜連川は、奥州道中の宿場だけでなく喜連川足利氏の城下町にもなります。ここを治めた喜連川足利氏の影響から、さくら市を代表する景観の寒竹囲いの生垣や御用堀も作られます。また、第12代藩主縄氏は水戸徳川家生まれで、江戸幕府最後の将軍、徳川慶喜の弟、更に母親は画家立原杏所の娘です。このことにより、喜連川は、茨城と繋がっていたことも分かります。また絵画に長けた藩主縄氏の作品から、喜連川の文化活動が盛んであったことも分かります。

この時期に活躍したのが、栃木県を代表する日本画家の牧野牧陵です。牧野牧陵は、喜連川藩の御用絵師でしたが、後に庶民に目を向け、生き生きと描きます。そして、その作品の多くは栃木県指定文化財になっています。また、氏家の俳句冊子「わらへな里」に挿絵を描き、氏家と喜連川の学びあいや交流にも関わります。



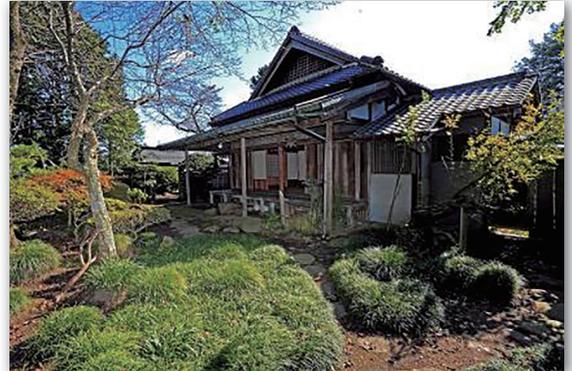
いまみやじんじや
今宮神社のイチヨウ

(3) 近代から現代につながる学びあい

近世の文化活動は、鉄道や新たに整備された国道により発展し、近代へと引き継がれます。

喜連川で活躍していた画家の牧野牧陵より南画を教わった荒井素雲の息子、荒井寛方は、技を磨き、大正年間になると日本美術院で活躍します。また、インドに渡り、日本画を教える傍ら、アジャンタ壁画の模写、インドの詩聖タゴールとの交流、晩年に法隆寺金堂壁画の模写作業など、国際交流や人材育成、文化財保護に従事します。

近代化の流れに乗って、栃木県の経済に大きな足跡を遺す瀧澤喜平治は実業家として多方面で活躍する傍ら、学校や病院の設立による地域貢献や学びの支援を行います。またこの頃、栃木県指定文化財となる瀧澤家住宅や郵便、銀行、警察など現在まで残る魅力的な近代建築物が建てられます。



たきざわけいへいぢゆうたくないてつちくどう
瀧澤家住宅内鐵竹堂



へきごとう くひ
碧梧桐の句碑

近世に花開いた俳句は更に氏家で盛んとなり、明治期に河東碧梧桐を招いた大句会を行います。ここには、行経済界で活躍し「日本金融史論」を著した瀧澤直七（瀧澤桜村後に、河東碧梧桐の提案を受け、瀧澤凹孫と改名）も含まれます。また、瀧澤直七は画家荒井寛方と深い親交を持ちます。1926（昭和元）年に2人で125日間の海外視察を行い、帰国後、欧米の美術と銀行経営について共著で下野新聞に「ヨーロッパ・アメリカ紀行記」を連載します。

喜連川神社の宮司であり歌人でもある高塩背山は旅の歌人若山牧水と深く交流し、また、喜連川から中央歌壇に作品を発表し続けます。

江戸時代から続く茨城方面との交流から、喜連川の高塩ヒロが磯原の廻船問屋の息子で、後の日本三大童謡詩人となる野口雨情の元に嫁ぎます。そして高塩ヒロは手元にあった、多くの野口雨情作品を散逸させず守り遺していきます。雨情の創作活動を、多くの氏家、喜連川の人々が物心両面で支え育みます。それによって生まれた作品は、現在さくら市の貴重な文化遺産です。

これまで述べてきた歴史を示す資料や作品は、現在、生涯学習の拠点である、さくら市ミュージアム-荒井寛方記念館-の主要資料として保管保存され、広く人々の学びに活用されています。

そして、これらの流れを引き継ぎ、積極的に生かし、活用するさくら市の人々は、現在栃木県の学びあいの先進地として、そして新たな学びあいやまちを育む歴史を創造し続けています。



のぐちうじょう あめふ つき
野口雨情「雨降りお月」

3 さくら市に対する満足度

さくら市は、東洋経済新報社が毎年公表している都市の「住みよさランキング」2016年度版で、栃木県内第1位のまちとなりました。

「安心度・利便度・快適度・富裕度・住居水準充実度」の5つの観点で採点し、順位づけられるこのランキングでは、過去にも、2012年が県内第1位、2014年度が県内第3位という結果が出ており、豊かな自然と利便性の良さ、子育て環境、教育環境、福祉の充実に力をいれてまちづくりを進めてきたことが、住みよいまちとして、多くの市民に認識されているといえます。

また、さくら市第1次振興計画における「まちづくりの38施策」について、5段階評価による満足度を市民に調査したところ、「生涯学習」「生涯スポーツ」「市民文化」「自然環境」の満足度は、常に上位に位置しています。

特に、施策の「生涯学習を推進する」は、過去3回の調査においていずれも満足度1位であり、市民の様々なニーズに対応した多様な事業を推進してきたことが、市民一人ひとりの満足度につながり、調査結果に結びついているものといえます。

施策別満足度の変遷

上位（高い）5項目【H21】			上位（高い）5項目【H23】			上位（高い）5項目【H25】		
1位	生涯学習を推進する	3.06点	1位	生涯学習を推進する	3.07点	1位	生涯学習を推進する	3.10点
2位	生涯スポーツを推進する	3.00点	2位	健康づくりを推進する	3.04点	2位	健康づくりを推進する	3.06点
3位	市民文化を振興する	2.97点	3位	生涯スポーツを推進する	3.03点	3位	自然環境を保全する	3.05点
4位	自然環境を保全する	2.97点	4位	市民文化を振興する	3.02点	4位	市民文化を振興する	3.03点
5位	みどりと清流のまちづくりを推進する	2.97点	5位	自然環境を保全する	3.00点	5位	生涯スポーツを推進する	3.03点
施策満足度平均点 2.81点			施策満足度平均点 2.88点			施策満足度平均点 2.91点		

※ 満足度は、「満足である」+5点、「どちらかといえば満足である」+4点、「普通」+3点、「どちらかといえば不満である」+2点、「不満である」+1点としています

施設ごとの事業内容

施設	事業内容
<p>公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 氏家公民館  <ul style="list-style-type: none"> ・ 喜連川公民館 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児を持つ親、青少年、成人、高齢者等を対象とし、主に生活に必要な知識や技能を学ぶ公民館講座を開設 ・ さくら市文化芸術協会所属団体、公民館自主グループ等の定期活動に施設を提供 ・ その他、市民の様々な学習活動や公共活動、市民交流の場に施設を提供 ・ 公民館ボランティアの育成と活動機会の提供 ・ 自治公民館活用の促進
<p>図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 氏家図書館 ・ 喜連川図書館 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書の貸し出し、リクエストサービス、レファレンスサービス等の展開 ・ 保育園、学童、児童センター、小学校等への団体貸出の実施 ・ 読み聞かせ、ブックスタート、紙芝居、人形劇等の定期事業の開催と文学講座等の実施 ・ 電子図書館の開設と電子書籍の充実 <div style="text-align: right;">  <p>(喜連川図書館)</p> </div>
<p>ミュージアム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さくら市ミュージアム <li style="padding-left: 20px;">～荒井寛方記念館～ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ さくら市ゆかりの作家や自然・歴史等による常設展の開催 ・ 各種企画展、巡回展の開催 ・ こども絵画展の開催 ・ 市民ギャラリーを活用した発表・鑑賞の場の提供 ・ 講演会、ギャラリーコンサート、講座、体験学習等の実施 ・ 各種連携団体との共催事業の実施
<p>体育施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 氏家体育館 ・ 喜連川体育館 ・ 総合公園 ・ さくらスタジアム 他 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「市民一人1スポーツ」を推進するための施設の提供 ・ 各種スポーツ教室の開催 ・ 市民体育祭、マラソン大会をはじめとする各種大会の開催 <div style="text-align: right;">  <p>(氏家体育館)</p> </div>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の様々な学習活動や公共活動、市民交流の場に施設を提供

また、市内 60 か所にある自治公民館も、会議の場所だけでなく、学びの拠点・交流の拠点として活用されるようになってきています。これは、氏家公民館が実施している「自治公民館を地域の学習拠点にすることを目的とし、生涯学習や家庭教育に精通した指導者を地域に派遣する」自治公民館活用事業の実施や、でまえ学び塾を自治公民館で開催したことで、学びの場としての活用が増えてきているためです。

今後、高齢化社会が進む中で、身近な自治公民館を活用しての学習活動は、市民が参加しやすい環境づくりという点からも増えることが予想されます。

2 市民の生涯学習の活動状況

(1) 主な生涯学習事業の参加状況

さくら市は、公民館活動を中心とした市民活動が盛んなところで、各種の学習活動、文化・芸術活動、スポーツ・レクリエーション活動などに多くの市民が積極的に参加しています。

生涯学習課をはじめとする関係機関の事業への参加者も多く、市民の2～3人に1人は、1年間のうちに、何らかの事業へ参加していることになります。

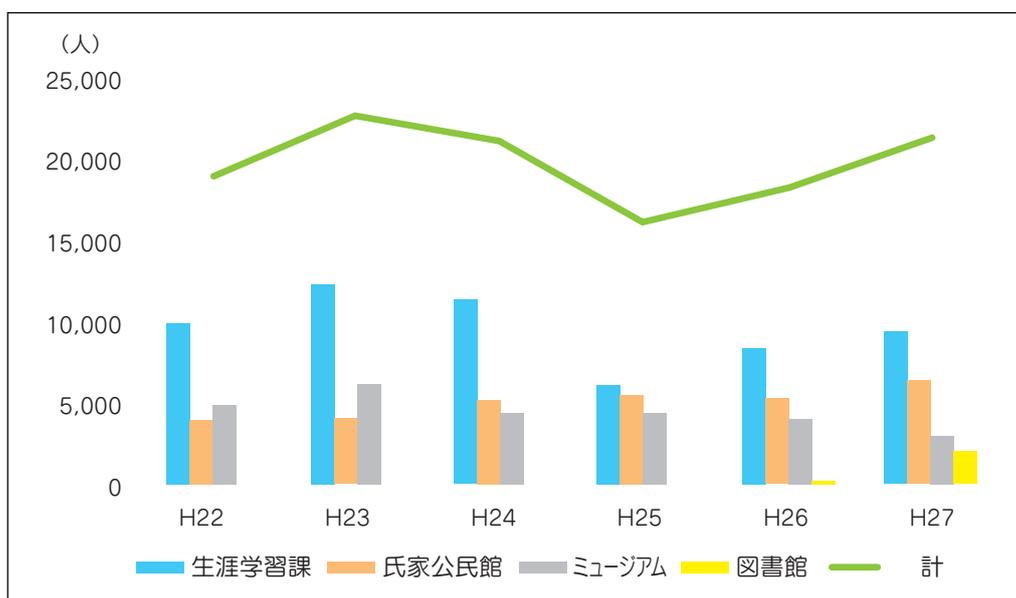
生涯学習事業への参加者数（のべ人数） (単位：人)

年 度	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27
生涯学習課	9,975	12,341	11,411	6,249	8,519	9,539
氏家公民館	4,000	4,174	5,240	5,632	5,424	6,523
ミュージアム	4,991	6,213	4,495	4,445	4,165	3,093
図 書 館	10	5	10	78	182	2,244
計	18,976	22,733	21,156	16,404	18,290	21,399

※「H」は「平成」を示す。

※平成25年度は、台風のために「ゆめ！さくら博」が1日のみの開催のため生涯学習課の参加数が減少。

平成27年度は、「図書館まつり」を開催したため、図書館の参加者数は大幅増加。

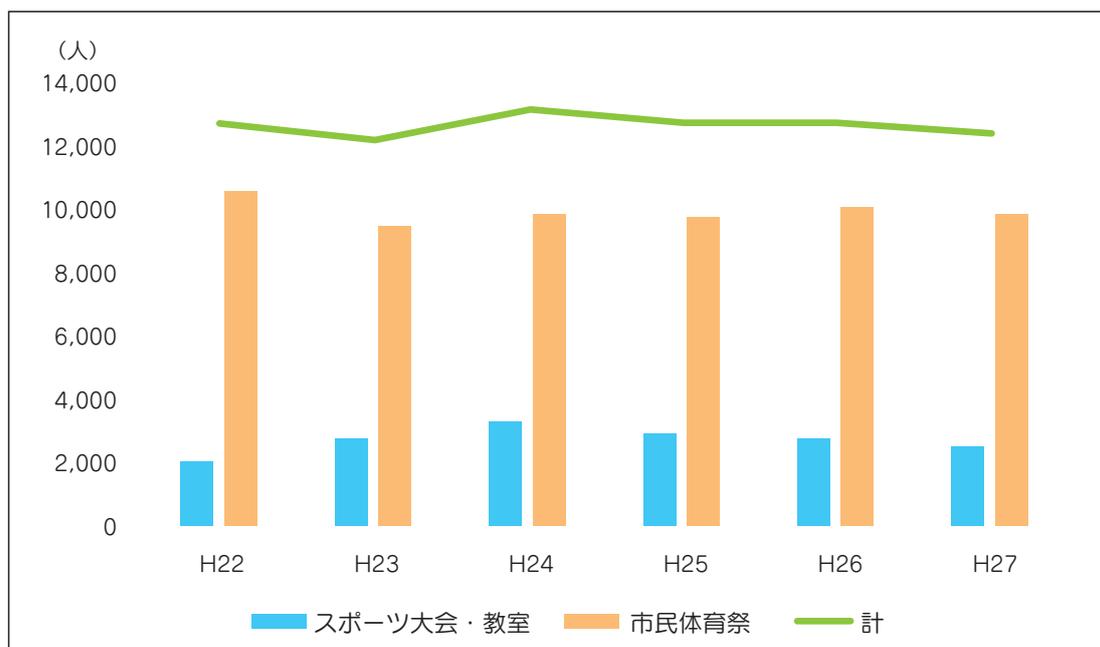


このほかにも、スポーツ振興課（平成 24（2012）年度までは、生涯学習課スポーツ振興室）主催の各種スポーツ大会、スポーツ教室や市民体育祭等の事業もあり、多くの市民が生涯学習事業に参加しています。

スポーツ振興課事業参加者数（のべ人数） (単位：人)

年 度	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27
スポーツ大会・教室	2,093	2,767	3,313	2,982	2,732	2,582
市民体育祭	10,654	9,502	9,857	9,804	10,043	9,863
計	12,747	12,269	13,170	12,786	12,775	12,445

※「H」は「平成」を示す。



(2) 主な生涯学習施設の利用状況

さくら市には、文化芸術協会に所属している各種団体や公民館自主グループ等をはじめとして、市民活動団体、NPO、ボランティア団体などの多数の団体があり、市内の施設を利用して定期的に活動しています。

これまでの主な生涯学習施設の利用者数は以下のとおりで毎年、35万人前後の利用がありました。平成27年度には利用者が40万人を超えました。

主な生涯学習施設利用者数（のべ数）

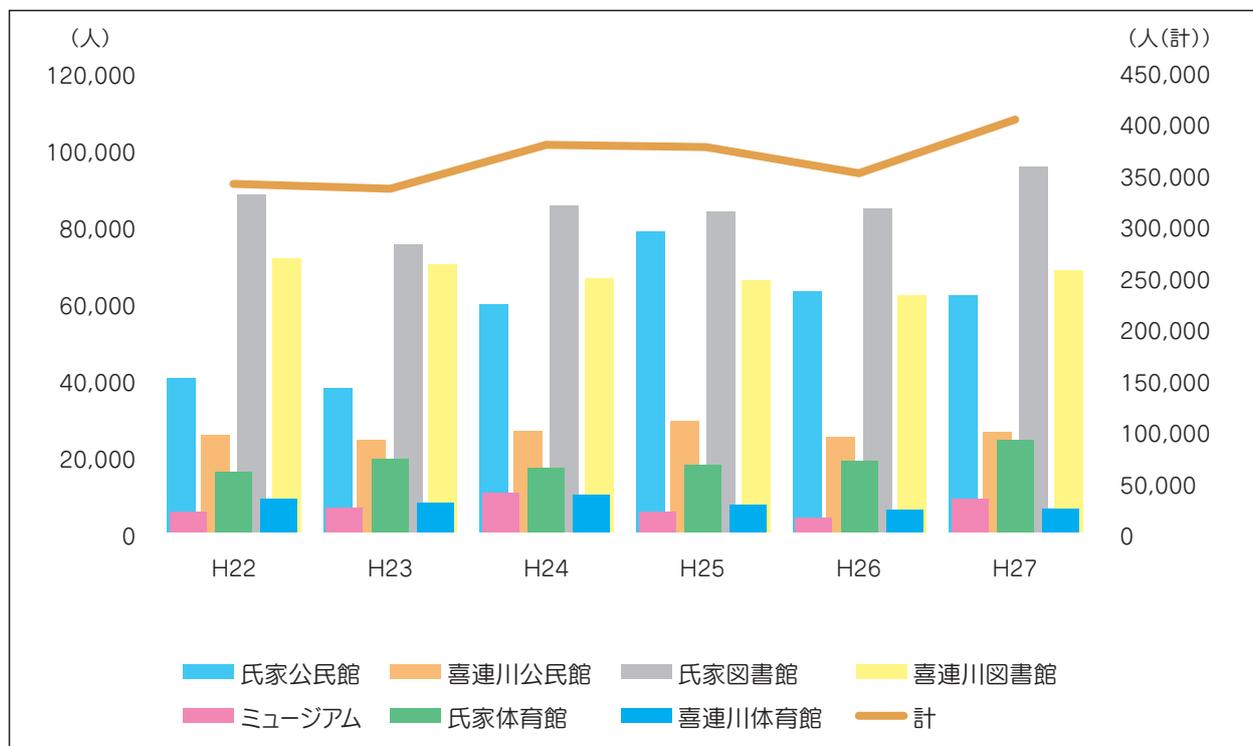
（単位：人）

施設名 年度	氏家公民館	喜連川公民館	氏家図書館	喜連川図書館	ミュージアム	氏家体育館	喜連川体育館	計
H22	40,577	25,633	89,678	71,723	20,944	59,753	34,017	342,325
H23	37,820	24,442	75,376	70,524	24,229	74,787	31,722	338,900
H24	59,736	27,035	85,618	66,448	40,769	63,592	38,594	381,792
H25	78,446	29,565	83,833	65,978	23,248	67,537	29,904	378,511
H26	63,581	25,633	84,972	62,654	17,962	72,804	25,757	353,363
H27	62,296	26,791	96,016	68,636	34,040	94,322	24,519	406,620

※「H」は「平成」を示す。

※平成22年度は、氏家公民館ホール改修工事のため、平成23年度は、氏家公民館ホール改修及び東日本大震災の影響による臨時休館のため、氏家公民館の利用者が減少。

※平成25年度は、ミュージアム収蔵庫改修工事のため、平成26年度は、ミュージアム収蔵庫改修工事及び常設展示室リニューアルのために4か月間休館となったため、ミュージアム利用者が減少。



このほかにも、上記以外の体育関係施設（運動公園、さくらスタジアム、プール等）や、生涯学習関連施設としての「和い話し広場」や「eプラザ」、「道の駅」、「瀧澤家住宅」、「女性アグリセンター」、「笹屋別邸」などの施設もあり、年間を通して多くの市民が利用しています。

(3) 主な生涯学習サークル・団体等の状況

さくら市内で、自主的に活動をしているグループやサークル、団体についてみると、さくら市文化芸術協会に所属している団体、公民館自主グループをはじめとして、市役所各課に主管・連携する関係団体等があります。

平成 28 年度 各種所属団体数一覧

分 野	さくら市文化芸術協会		公民館自主グループ	
	登録団体数 (団体)	登録人数 (人)	登録団体数 (団体)	登録人数 (人)
囲碁将棋	2	40		
音楽	5	108	3	37
コーラス	5	120	2	66
手芸・工芸	1	9	7	81
ダンス	12	123	2	37
ヨガ	2	6	3	31
体操	2	28	4	54
茶華道・アレンジメント	4	41	2	22
美術	4	43	2	23
文芸	2	17	2	18
邦楽	19	165		
英会話			1	6
その他			1	11
計	58	700	29	386

各課・施設が主管・連携する団体

課・施設	分 野	団体数 (団体)
図書館	読み聞かせ	2
公民館	公民館ボランティア他	2
ミュージアム	民話・自然保護・歴史文化他	6
スポーツ振興課	体育協会加盟 (陸上・球技他)	25
生涯学習課	社会教育団体、まちづくり団体等	12
企画政策課	まちづくり関係団体	18
農政課	生活研究グループ、4Hクラブ他	4
商工観光課	観光ボランティア他	3
健康増進課	食生活改善団体	1
建設課	フラワーボランティア	1
環境課	ごみ問題を考える会	1
その他	NPO法人、社会福祉協議会等所属	16
計		91

第3節 これまでのさくら市の生涯学習推進計画の成果

1 これまでのさくら市の生涯学習振興施策

さくら市は、平成17年3月に旧氏家町と旧喜連川町が合併して誕生した新しい市です。もともと合併前の2町は、公民館講座や公民館活動を中心とした学習活動が盛んなまちで、それぞれに生涯学習推進計画を策定し、振興施策に取り組んでいました。

合併後は、2町の良さを生かしながら、新しい市「さくら市」にあった生涯学習推進計画が必要となり、平成19年3月にさくら市生涯学習推進計画【第一次】を策定しました。

この計画は、市民一人ひとりが、人生の各時期に学習活動を盛んに行い、その学習の成果を生かして、「この家に生まれ、この学校に学び、この地域で生活をし、この時代に生きて本当によかった。」と実感できる“人生”と“家庭”と“地域社会”を実現することを目指したものです。

また、メインテーマとして「さくら市をもっと好きになろう」を掲げ、すべての市民が新しく誕生した「さくら市」を好きになるような「人づくり・まちづくり」を推進してきました。



さくら市 市章

2 第一次計画における生涯学習振興施策の成果

さくら市の生涯学習振興施策は、第一次生涯学習推進計画に基づいて、市民の生涯にわたる学習活動の支援と市民協働での生涯学習によるまちづくりを行ってきました。

第一次計画では、「さくら咲き 夢さき 人さき 文化さく」を基本理念に、3つの基本目標と重点プロジェクトを掲げて取り組んできました。

【基本目標】

- ① 生涯の各時期における自発的な学習活動をすすめます
- ② 学習の成果を生かし充実した人生と活力にあふれた地域社会づくりを目指します
- ③ 生涯学習の支援体制と学習環境を整備・充実します

【重点プロジェクト】

〔前期計画〕

- ① さくら咲き まなびの“まち”は人づくり
- ② 夢がさく かきねを越える“まち”づくり
- ③ 文化さく “まち”全体がミュージアム

〔後期計画〕

- ① 学びあう 絆で 育つ 人づくり
 - ② さくらの和（輪） かきねを越える まちづくり
- ※ 前期計画では、3つの重点プロジェクトでしたが、後期計画を策定するにあたり、2つの重点プロジェクトに見直しました。

こうした取り組みの成果として、主なものを次ページ以降にまとめます。

3 第一次計画に基づく実施事業

(1) ゆめ!さくら博

ゆめ!さくら博は、市民の出店者と行政の出店者が一体となり、実行委員会を組織して実施する学びのお祭りです。市民の学びの成果や行政の取り組み等を一堂に紹介することで、生涯学習への理解と学びのきっかけづくりとしています。

毎年、10月下旬に2日間(土・日)開催し、会場である氏家体育館、喜連川体育館、氏家公民館、喜連川公民館には、多くの市民が来場しています。

出店者は、展示・体験部門、発表部門、食のブースのいずれかで参加し、来場者に展示した自分の作品を見てもらったり、ものづくりなどの体験活動を提供したりするほか、歌やダンスなどの発表を行っています。さくら市では、市民一人ひとりが自発的な学習活動を盛んに行い、その成果を生かすことができるよう、多様な機会と場を設けて「入力型」「出力型」「交流型」の学習を展開していますが、ゆめ!さくら博もその一つです。

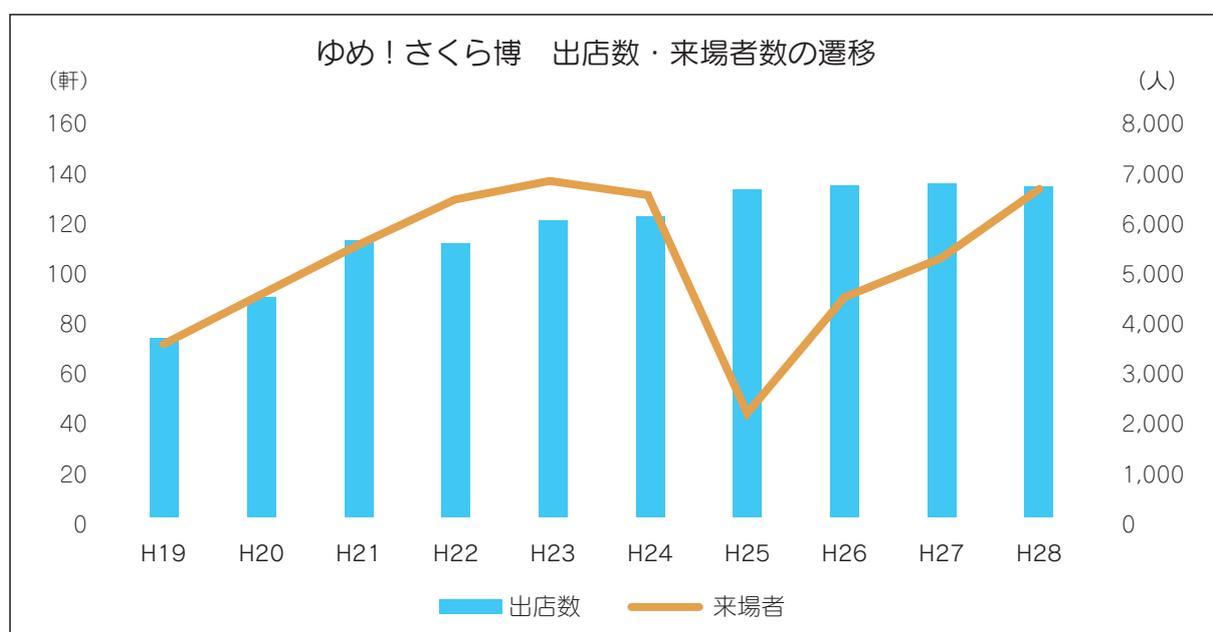
また、平成25年度からは、出店者とは別に、中学生や高校生のボランティアが多数参加し、各出店者の活動支援や会場の後片付けを行っています。



ゆめ! さくら博 開催一覧

年 度	開催日時	出店数	来場者数	備 考
H 19	10月27日(土)・28日(日) 10:00～16:00	73	3,500	
H 20	10月25日(土)・26日(日) 10:00～16:00	89	4,500	26日(日)は15:00まで
H 21	11月7日(土)・8日(日) 10:00～15:00	111	5,500	
H 22	10月30日(土)・31日(日) 10:00～15:00	111	6,400	
H 23	10月29日(土)・30日(日) 10:00～15:00	120	6,800	
H 24	10月27日(土)・28日(日) 10:00～15:00	122	6,550	
H 25	10月27日(日) 10:00～15:00	133	2,120	※台風のため日曜日のみ開催
H 26	10月25日(土)・26日(日) 10:00～15:00	134	4,500	
H 27	10月24日(土)・25日(日) 10:00～15:00	135	5,315	
H 28	10月22日(日)・23日(日) 10:00～15:00	134	6,708	

※「H」は「平成」を示す。



※平成25年度は、台風のため日曜日のみ開催だったため、来場者数が減少。

出店者数は、開催初年度から増え続け、平成27年度には、初年度に比べ1.8倍の出店がありました。
来場者数は、当初の増加傾向から減少した年度もありましたが、集客のために市民団体の企画イベントと同日開催等にしたことで、再び増加傾向を示しています。

交流：人々が交流し、様々な人や事柄に出会い、ふれあいながら学んでいく
出力：知識や技能、経験などの学習成果を発揮する
入力：講座や研修などを通して学ぶ

(2) 生涯学習情報紙の発行

さくら市では、毎年年度当初に、生涯学習情報紙「さくら市学びガイド（家庭用保存版）」を発行し、生涯学習に関する様々な情報を提供しています。さくら市が誕生した平成 17 年 6 月に第 1 号が発行され、以降毎年発行し市内全戸に配布しています。

学びガイドには、以下の内容が掲載され、市民が生涯学習を始めるきっかけづくりや、生涯学習の推進に大きな役割を果たしています。

【掲載内容】

- ・ さくら市内の学習施設MAP
- ・ 生涯学習推進計画重点プロジェクトに係る活動内容
- ・ 市民や行政職員が講師となり、自治公民館や学校等に出向いて講座を行う
てまえ学び塾（学びの先生）の一覧
- ・ 社会教育施設や関係施設等で開催される講座・教室の一覧
- ・ 会員を募集しているサークル・団体の一覧
- ・ ボランティア・NPOに関する一覧
- ・ さくら市役所からのお知らせ等



さくら市学びガイド

「さくら市学びガイド」一覧

2005年度



(A4版 24頁)

2006年度



(A4版 24頁)

2007年度



(A4版 24頁)

2008年度



(A4版 28頁)

2009年度



(A4版 28頁)

2010年度



(A4版 28頁)

2011年度



(A4版 28頁)

2012年度



(A4版 28頁)

2013年度



(A4版 28頁)

2014年度



(A4版 28頁)

2015年度



(A4版 28頁)

2016年度



(A4版 28頁)

(3) 生涯学習振興大会

生涯学習振興大会は、第一次生涯学習推進計画の「さくら市をもっと好きになろう」をキャッチフレーズに、旧2町の融和を根底に、人づくり・まちづくりに重点を置いた生涯学習の推進と、市民協働によるまちづくりを進めるために毎年実施しています。

参加した市民に、「さくら市をもっと好きになろう」というキャッチフレーズから、さくら市を訪れる人、さくら市に住む人を増やすための魅力あるまちづくりについての理解を深めてもらうために、毎回、生涯学習推進計画の概要について説明を行い、市民の活動や行政の取り組みについて理解を促してきました。その際、第2部には著名人を招いての講演会を実施し、多くの市民に参加してもらうことで、生涯学習やまちづくりにふれる機会となるようにしています。

また、平成23年度からは、第1部を午前中に実施し、市民協働の推進者である各種団体やボランティアの方々が、共に考える機会を提供するとともに、人材のネットワークを構築し市民協働のまちづくりへの機運を高めるためのサミットを実施してきました。各団体がお互いの活動内容を知るきっかけとなったり、少数ではあるものの、サミットをきっかけにつながりが生まれた団体もできたりして、人づくり、まちづくりへの契機となっています。



生涯学習成果発表



SAKURA 市民活動・ボランティアの集い

生涯学習振興大会の変遷

年度	内 容	会 場	参加人数
H17 (H18.2.26)	○講演：スポーツと私とチャレンジ精神 講師：スポーツライター 乙武 洋匡 氏	氏家 公民館	700人
H18 (H19.3.11)	○さくら市をもっと好きになるために ～さくら市生涯学習推進計画重点プロジェクトの発表～ ○トークショー：人生を楽しくする方程式 ピーター・フランクフル氏	氏家 公民館	700人
H19 (H20.3.9)	○地域の宝発表 ・蓮の花と原爆の残り火・御用堀と水利事業・地産地消・喜連川の昔話と歌 ○関口知宏講演（日本再発見）	喜連川 公民館	300人
(H20.3.14)	○市川染五郎講演（古典探しの旅）	氏家公民館	540人
H20 (H21.2.15)	○Sakura Springコンサート（・山崎勇喜・ゴスペル・ミネ/VV） ○地域の宝展示	氏家 公民館	600人
H21 (H22.2.21)	○まちあそび（サテライトを活用した生涯学習体験） ○上妻宏光コンサート（音楽ジャンルのかきねを越えた演奏）	喜連川 公民館	450人
H22 (H23.2.13)	○第1部「いまどきのWAKAMONO」高校生撮影映画上映 ○第2部 SAKURA キッチンコロシアム コウケンテツ氏	喜連川 公民館	350人
H23 (H24.2.26)	○第1部 SAKURA市民活動・ボランティア サミット2012 ○第2部 家族の絆！地域の絆！スペシャル 講演：渡部陽一氏	氏家 公民館	700人
H24 (H25.2.24)	○第1部 SAKURA市民活動・ボランティア サミットVol 2 地域づくり・まちづくりフォーラム「さくら市元気↑作戦会議」 ○第2部 講演：徹底分析！地域力のヒミツ 堀尾 正明氏	氏家 公民館	700人
H25 (H26.2.23)	○第1部 SAKURA市民活動・ボランティアサミットVol 3 ・まちづくり発表会・語り合おう～ふるさとさくら市の今を未来を ○第2部 講演：脳を活かして仲間元気に生きるコツ 澤口 俊之氏	氏家 公民館	600人
H26 (H27.3.1)	市制10周年記念事業 ○第1部 さくら市をもっと好きになろう！コンサート ・小坂佳代子氏、加藤里佳子氏 さくらウインドアンサンブル ○第2部 お笑いライブとトークショー・ザ・たち、嶋均三、DJ Kei	氏家 公民館	470人
H27 (H28.2.28)	○第1部 市民活動・ボランティアの集い Vol 4 ～大好きなさくら市の“魅力”を発信し未来を創造しよう！～ ○第2部 講演：パッキンマックンの地域の魅力発信！パッキンマックン	氏家 公民館	570人
H28 (H29.3.19)	○第1部 さくら市を元気に！未来へつなごうふるさとへの思い ○第2部 講演：藤田 弓子 氏	氏家 公民館	300人

※「H」は「平成」を示す。

※平成19年度は、期日、内容を変えて2会場で実施。

※平成23年度、24年度、25年度、27年度、28年度については、第1部を午前を実施。

※参加人数は、およその数で表示。

(4) さくら市民大学

さくら市民大学は、さくら市におけるその時々¹の生涯学習の現状や課題を踏まえてテーマを設定し、地域のリーダーとして活動できる市民を育成する連続講座です。幅広い年代を対象に参加者を募集し、趣味や教養、技術を高めるだけでなく、受講後には修了生が、自主グループまたは個人として学んだ成果を生かして活動ができるように、受講生同士や同じような活動をしているグループ・団体とつながるための支援をしています。

修了生が実際に活動を始める際には、活動の場を提供したり、広報に協力したりするなど、活動に応じた支援をしています。

市民大学の変遷

年度	内 容	修了後の活動
H19	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の宝探し講座（前期） ○地域の公民館を使う講座（後期） 13回講座 ・わがまち自慢大会 ・ミステリーツアー ・雨情トーク&ライブ ・さくら市を探しに行こう ・奥州街道を歩く ・氏家宿を学ぶ（古町公民館） ・阿久津河岸を学ぶ（上阿久津公民館） ・喜連川藩・喜連川宿を学ぶ（龍光寺） 	<p>旧氏家町、旧喜連川町に住む市民が、お互いのまちの良さに気づき、「さくら市」を好きになってくれるためのきっかけづくりとして実施。修了後は、各自が気づいた良さをPR。</p>
H20	<ul style="list-style-type: none"> ○市民プロデューサー養成講座 8回講座 ・湯布院の活性化(公開フォーラム) ・夕張再生市民活動(公開フォーラム) ・塩原温泉活性化(公開フォーラム) ・仲間づくり、市役所の仕組み、市民協働まちづくり(実践講座) 	<p>まちづくりの実践事例から、活動に結び付けるノウハウを学ぶ。修了後は、各自の所属する団体、個人で学んだ成果を実践。</p>
H21	<ul style="list-style-type: none"> ○地域リーダー養成講座 6回講座 (施設の宝を活用した人材育成とネットワーク) ・まちづくり実践者の体験談とワークショップ ・サテライト見学ツアー ・生涯学習振興大会企画 	<p>生涯学習振興大会の企画でまち遊びを実施。H22より、さくらまちあそびクラブとして団体活動を開始。定期的に「駄菓子屋」などを実施。</p>
H22	<ul style="list-style-type: none"> ○観光ボランティア養成講座（初級編） 7回講座 ・観光ボランティアについて ・喜連川の観光資源をみつけよう ・栃木市観光ボランティア視察 ・観光ガイドツアーの実践 	<p>「さくら市観光ボランティアの会」を設立。 喜連川地区の観光案内を開始。</p>

年度	内 容	修了後の活動
H23	○前期講座～「さくら市のご当地グルメを作ってみよう！」 5回講座 ○後期講座「ずばり！ボランティア活動を試してみよう！」 3回講座	H24より「いなほクラブ」として、ゆめ!さくら博に食ブースを出店。
H24	○観光ボランティア養成講座（氏家編）7回講座 ・観光ボランティアについて ・氏家の歴史をみつけよう！ ・氏家の観光資源をみつけよう！ ・小山市観光ボランティア視察 ・うじいえ雛めぐりで観光ガイドツアー体験	「さくら市観光ボランティアの会」の新メンバーとして修了生が登録。 氏家地区の観光案内を開始。
H25	○ボランティアからはじめる地域デビュー講座 7回講座 ・ボランティアとは（理論編） ・ボランティア体験（実践） ・被災地ボランティア ・イベントボランティア ・福祉ボランティア ・自然環境ボランティア 等々	この年より「さくらユースボランティア」として、生涯学習課が青少年のボランティア活動のコーディネートを開始。講座での体験活動協力団体、施設等は、ユースボランティアの受け入れ団体として、継続して連携。
H26	○“ふるさと”再発見！里山・林業講座 5回講座 ～さくら市の里山と森林に親しむ～ ・里山森林について学ぼう ・さくら市の人工林の現状 ・林業体験を試してみよう！ ・振り返りワークショップ	H27より里山ボランティアとして活動を開始。大きな山桜のある里山の保全活動を定期的に実施。
H27	○まちの“魅力”発信講座 5回講座 ・地域の魅力を発信するとは ・発信の方法を考える ・さくら市の“魅力”集め ・班ごとに発信する媒体の作成 ・生涯学習振興大会第1部での成果発表	成果物として、リーフレット2種、ポスター2種を作成。さくら市のイベント等で配布・活用
H28	○イベント企画講座 6回講座 ・魅力あるイベントとまちづくり ・ロケハン&企画会議 ・人が集まるチラシづくり ・イベント準備 ・イベント開催 ・生涯学習振興大会第1部での成果発表	

(5) 生涯学習ゾーンとサテライトの活用

第一次生涯学習推進計画では、市内の施設等を生涯学習ゾーン（施設群）として位置づけ、市民が活用できるように、毎年、学びガイドなどを通して広く紹介してきました。期間中には、「喜連川まちなか歴史ゾーン」「阿久津河岸エコミュージアムゾーン」「蒲須坂駅前まちづくりゾーン」「奥州街道『氏家宿』ゾーン」「穂積里山体験ゾーン」「新たな拠点ゾーン」の6か所を順次、生涯学習ゾーンと位置づけ、各ゾーン内にある施設や神社仏閣、史跡、自然環境等のあらゆるものが生涯学習における学びの場（学習フィールド）であることを提案してきました。

また、生涯学習のイベントは公民館で行うという概念を打ち壊し、ゾーン内の寺院等を生涯学習サテライト施設として活用し、エコキャンドルコンサートを開催してきました。



サテライト活用事業

年 度	内 容	活用ゾーン等
H21	○璉光院（エコキャンドルコンサート・まちあそび） ○自治公民館（まちあそび） ○和い話し広場石蔵(まちあそび)	喜連川まちなか歴史ゾーン
H22	○和い話し広場石蔵（駄菓子屋子ども店長・まちあそび） ○喜連川スカイタワー（オペラ&バイオリンコンサート)(クリスマスジャズライブ) ○光明寺（エコキャンドルコンサート・まちあそび）	喜連川まちなか歴史ゾーン 奥州街道「氏家宿」ゾーン
H23	○和い話し広場石蔵（駄菓子屋子ども店長 他） ○専念寺（エコキャンドルコンサート） ○かんぽの宿 喜連川温泉（ギャラリーコンサート）	喜連川まちなか歴史ゾーン
H24	○西導寺（エコキャンドルコンサート） ○「鐵竹堂瀧澤記念館」～活かすべきもの～（懇談会・ミニコンサート）	奥州街道「氏家宿」ゾーン
H25	○旧穂積小学校（エコキャンドルコンサート） ○ニッカウヰスキー創業 80 周年記念さくら市連携事業	穂積里山体験ゾーン 企業
H26	○JR 氏家駅東口交流広場 （エコキャンドルコンサート） ○「瀧澤家住宅」 ～マッサンとリタの物語～	新たな拠点ゾーン
H27	○和い話し広場 （エコキャンドルコンサート） ○「瀧澤家住宅」 ～鐵竹堂で楽秋する7日間～	喜連川まちなか歴史ゾーン 新たな拠点ゾーン
H28	○「瀧澤家住宅」（エコキャンドルコンサート） ○「瀧澤家住宅」「花森安治とピールのデザイン」他 年間 10 回程度企画展示・イベントを実施	新たな拠点ゾーン

※「H」は「平成」を示す。

※「瀧澤家住宅」は、平成 26 年 3 月にさくら市が取得以降の名称であり、それ以前は「鐵竹堂瀧澤家記念館」という名称で表記。



エコキャンドルコンサート（さくらスクエア）



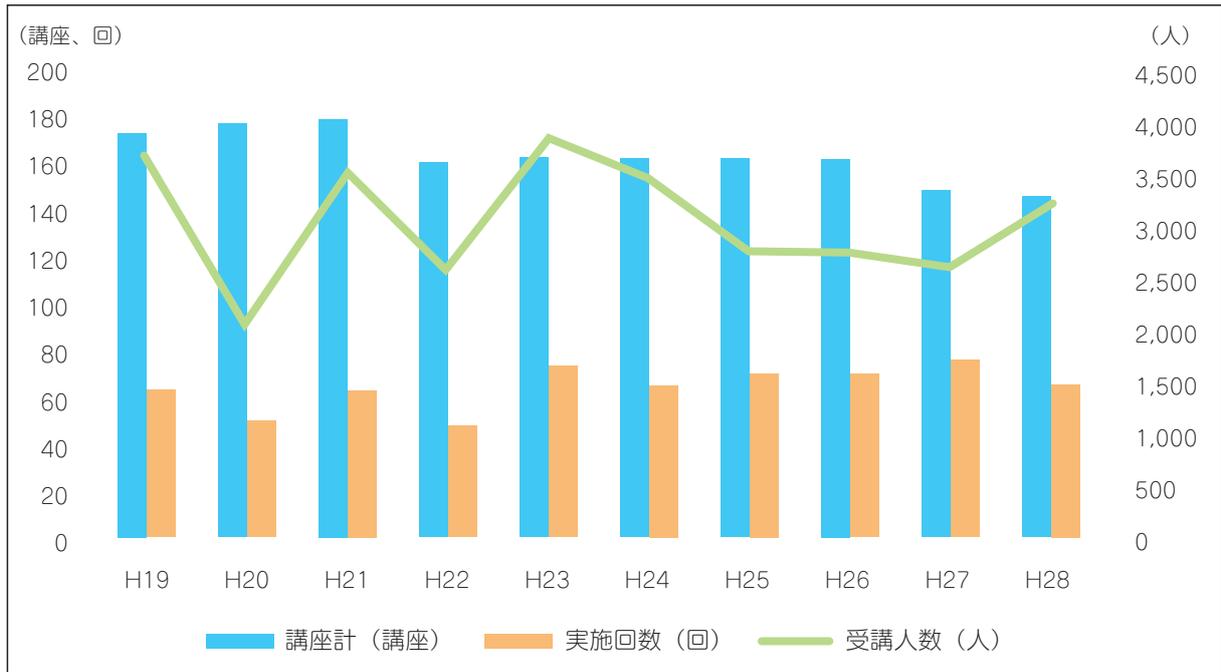
さくらスタジアム

なお、「和い話し広場」「道の駅」「eプラザ」「さくらスクエア」「さくらスタジアム」「瀧澤家住宅」「笹屋別邸」などの施設は、第 1 次計画期間中に新設されたり、活用が始まったりした施設です。

「でまえ学び塾」活用状況

年 度		H 19	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28
講 座 数	市民編	89	92	95	76	78	81	82	81	74	76
	行政編	84	85	84	84	85	81	80	81	74	70
	講座計	173	177	179	160	163	162	162	162	148	146
実施回数（回）		63	50	63	48	73	65	70	70	76	66
受講人数（人）		3,648	2,033	3,529	2,593	3,852	3,440	2,767	2,767	2,620	3,228

※ 「H」 は「平成」 を示す。



※ 平成 28 年度については、12 月末現在での申し込み講座数及び参加見込み人数を表示。

※ 講座「行政編」には、企業（商店）、公共機関、公益企業の講座を含む。

でまえ学び塾の受講人数は、年度によって増減があるものの、毎年多くの市民から実施の申し込みがあります。児童センターや学校、PTAなどの社会教育関係団体からの申し込みが多い中で、最近、各行政区や単位子ども会育成会からの申し込みも増えてきています。



地域の公民館で市民による「ミニ門松を作ろう」



学校でスポーツ推進委員による「ニュースポーツ（キンボール）講座」

(7) 青少年によるボランティア活動

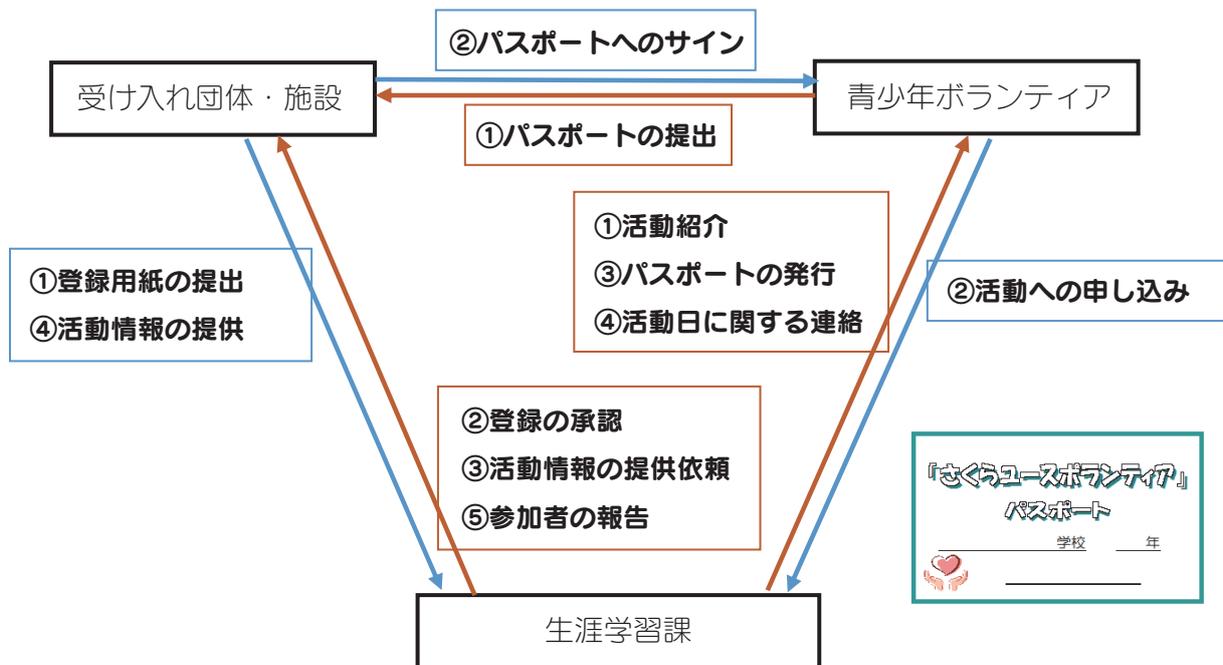
さくら市では、小学生から高校生までの青少年が、積極的に地域活動・ボランティア活動に参加し、体験を通して地域住民と交流するための機会をコーディネートしています。

平成 17 年 3 月末に「さくらリーダーズクラブ」を設立し、市内在住在学の中高校生が地域でのボランティア活動に参加するとともに、ボランティアとしての資質の向上のための研修などを行ってきました。

また合併当初から、成人式を「市民が祝う成人式」として位置づけ、小学生から高齢者まで幅広い年代のボランティアを募り、当日の運営に協力してもらっていました。

このような活動の積み重ねの結果、平成 24 年度末には、年間 100 名以上の小・中・高校生が何らかのかたちで、生涯学習課関係の事業でボランティアとして活動していることがわかりました。そこで、青少年によるボランティア活動をさくら市内全域で、効果的に展開できないかと考え、平成 25 年度から青少年ボランティアの活動を「さくらユースボランティア」と称して、青少年のボランティア活動を支援、コーディネートする事業が始まりました。

「さくらユースボランティア」の活動までの流れ



成人式ボランティア



被災地ボランティア

「さくらユースボランティア」は、生涯学習課や公民館の事業、さくら市内の市民団体や高齢者施設、福祉施設等で行う活動の情報を提供し、小・中・高校生が希望する活動を選んで申し込みをする個人の活動です。活動に参加すると、「ボランティアパスポート」に記録が残り、高校卒業までは自動継続となります。平成 25 年度の設立時には、255 名だった登録者数は、平成 28 年度には、500 名を超えています。

「さくらリーダーズクラブ」は、会長を中心として、子ども会行事や施設のイベント、各種研修会などに参加し、また、自主企画事業を行うなど定期的・主体的な活動を行っている組織です。

さくら市内在住在学の小・中・高校生は、自分に合ったボランティアの組織と内容を「さくらユースボランティア」「さくらリーダーズクラブ」から選んで参加し、活動していくことができます。



さくらリーダーズクラブ

また、さくら市では「SAKURA KIDS DANCERS」「けいおん講座」をはじめとした、青少年向けの公民館講座が実施されています。

「SAKURA KIDS DANCERS」は、小学生を対象としたダンス講座で、市内にある「さくら清修高校ダンス部」のメンバーが講師となって教えてくれる講座です。合併当時から実施している講座で、すでに 10 年以上の実績があります。



けいおん講座

「けいおん講座」は、受講生である中高生が、自分の興味のある楽器の演奏方法の指導を受け、バンドを編成して楽曲の練習をし、最終回である発表会で演奏をする講座です。講座実施日以外の個人練習にも公民館を提供することで、青少年の居場所づくりを行っていて、平成 21 年度から毎年実施しています。

これらの講座に共通しているのは、受講生が修了生となった後に、講師や講師に協力するボランティアとして、講座に携わっていることです。ダンス講座を受講していた小学生が、高校生になってダンスを教える立場で参加したり、けいおん講座を受講していた高校生が、大学生になって講師として指導したりするようになりました。このことは、平成 28 年度で終了した「チア講座」（文化振興係主催講座：8 年間実施）にも言えることで、小学生の時に受講生だった中学生や高校生が、ボランティアとして参加し、講師のサポートを務めていました。

このように、多くの青少年が市内の様々な地域でボランティアとして活動する背景には、ボランティア活動をする先輩、兄、姉の姿を見た後輩や弟、妹が、一緒に参加することが増えていることや、さくらユースボランティアの活動に、年間を通して何度も参加するリピーターが増えていることが挙げられます。また、受け入れ団体や施設にとっては、ボランティア活動を通じた青少年との交流が有意義であるという実感から、可能な範囲で活動の機会を提供してくれることも、大きな要因となっています。

(8) 各種社会教育事業

生涯学習課では、ほかにも市民の多様なニーズに対応できるよう、多くの事業を準備、展開しています。

① 家庭教育支援事業

さくら市では、家庭教育支援を推進するため家庭教育オピニオンリーダー、栄養士、主任児童員、青少年センター少年指導員、子育て関係事業のボランティアなどで構成する「家庭教育支援チーム」を組織し、家庭教育支援に関する研修や講座を実施しています。

講座名・事業名	内 容	実施日等
親子応援講座	学習機会に参加しにくい親にも家庭教育の重要性を啓発するため、各小学校の就学時健康診断を利用して、家庭教育オピニオンリーダー等の地域子育てサポーターが保護者に対し講座を実施する。	各小学校の就学時検診で実施
家族フェスタ	「家族のふれあい」をテーマに家庭教育支援チーム、オピニオンリーダーなどの市民ボランティアとの協働で、親子で楽しめる様々な体験を提供する。	8月の第1日曜日
育ちにくい子を持つ親への支援講座 (ひだまりふぁんの会)	子育てをされていて子どもが育ちにくいと感じている保護者を対象に開催している。定期的集まり、参加者同士が子育ての悩みを話し合い、専門家からアドバイスを受けられるようになっている。	毎月第2・4木曜日



親子応援講座



家族フェスタ

② 青少年健全育成にかかわる事業

さくら市では、青少年センターを組織し常任少年指導員を配置し、市民による少年指導員と共に青少年健全育成に取り組んでいます。また、青少年のボランティア活動にも力を入れ、地域の施設や団体が受け入れることで、地域ぐるみで青少年を育成する機運を高めています。

講座名・事業名	内 容	実施日等
青少年センターによる青少年健全育成活動	青少年センターの機能（指導・相談・教育）を柱に、関係機関との連携を図り青少年健全育成に取り組む。 市民ボランティアによる少年指導員がセンター活動の主体となり、全体であいさつ巡回活動や農業体験を行うとともに、「体験活動班」「研修班」「広報啓発班」「ICT 研究班」の4班を編成し、それぞれが独創的な活動を実践する。	あいさつ巡回活動：奇数月の第1水曜日 その他は計画による
青少年体験活動	青少年センターを中心に青少年を対象として、実態に応じた課題解決のため各種体験を行う。また、青少年が企画・運営等に参画し、活躍できる場の提供を行う。	計画による
青少年ボランティア活動事業	小学生から高校生までの青少年に、ボランティアとして活動する機会と場を提供するために「さくらユースボランティア」を組織し、活動のコーディネートを行う。	活動募集は3か月ごとに実施。
放課後子ども教室推進事業（喜連川小学校区・押上小学校区）	地域の大人が指導者となり、放課後の子どもの安全な居場所の提供と地域のボランティアとの交流により子どもの健全育成を目指す。	毎週1回（休業日を除く）実施曜日は、学校による。

③ 社会教育と学校教育の協働推進

学校を支える地域づくり、地域と共に歩む学校づくりを目指し、学校支援地域本部事業を中心に、社会教育と学校教育が協働して事業を推進しています。生涯学習課と学校教育課も連携し、事業を推進しています。

講座名・事業名	内 容	実施日等
学校支援地域本部事業	学校支援活動の充実を図るために学校支援地域本部事業を展開し、校内における組織づくりやコーディネートシステムの構築、見通しをもった支援のための研修の工夫などに取り組む。また、事業の成果を市内の小中学校へ伝えることで「地域と共に歩む学校づくり」の推進を行う。	氏家小学校区 喜連川小学校区 で通年実施
地域と学校を結ぶコーディネーター	各学校に配置して、地域の人材、教材、情報を学校と地域社会とで共有・活用する。	コーディネーター 交流会を実施
学校開放講座	教職員が持つ技術や知識を地域に還元し、文化、芸術、体育等の講座を開催する。	教職員への募集 により実施

④ 文化振興事業

さくら市では、市民が文化や芸術にふれる機会を提供するとともに、市民による文化・芸術活動を支援し推進しています。また、市内各所に残る歴史や史跡、自然等を保護、保存、継承していく活動にも取り組んでいます。

事業名	内 容	実施日等
定期文化振興事業	市民が文化や芸術を身近に親しめるコンサートや公演などを、氏家及び喜連川公民館のホール、瀧澤家住宅、その他の公共施設、さらに市内企業などを会場として行う。また、積極的な参加だけでなく、市民の事業参画の推進も目指す。	別途計画により定期的に実施
児童生徒対象文化芸術振興事業	移動音楽教室として、学校の要望を取り入れながら、普段体験をすることの少ない、優れた奏者の生演奏を聞くことを目的に、各学校で実施している。	年1回全小中学校で実施。全児童生徒が対象。
文化財の保護	後世に残る歴史、民族、史跡、天然記念物の調査、保護、保存、啓発活動を行う。また、文化財の資料的価値や状況によって特に必要と認められるものを指定し、保護していく。	随時
埋蔵文化財の調査、保護	埋蔵文化財包蔵地の周知と、開発等による遺跡の記録保存等をするために、関係団体との調整や発掘調査を行う。また、状況に応じて発掘現場説明会を実施し、普及啓発活動に努める。	随時
瀧澤家住宅の管理と利活用	栃木県指定文化財瀧澤家住宅の管理・保存と維持を行う。また、積極的な利活用による公開を行う。	別途計画により公開等を実施



定期文化事業（雨情オペラ）



瀧澤家住宅の利活用（公開録音）

⑤ 公民館、図書館、ミュージアム関係事業

公民館、図書館、ミュージアムにおいても、下記のような各種事業を展開しています。

	講座名・事業名	内 容	実施日等
公 民 館	社会教育学級	<p>【エンゼル講座】</p> <p>乳幼児から幼児期への子育てのあり方（しつけや子育てのポイント等）や、この時期に必要とされる学習の提供、また、育児の方法を見つけるための相談、そして、修了生が学習成果や経験知識を発揮できるような自主学習活動の向上を図る。</p> <p>【菜の花学級】</p> <p>高齢期の学習機会の提供や学習内容「折り紙雛づくり」の充実を図り、高齢者の心豊かな生きがいをづくりの促進と社会参加を促しながら、高齢者自身の意欲と創意工夫を生かした学習活動を行う。</p>	年間計画に基づき実施
	地域子どもプロジェクトSSの支援（熟田小学校区）	地域の大人たちがスタッフとなり、子どもとの体験活動を通じて、子どもと大人また大人同士のつながりを深め、地域ぐるみで事業を展開していくことで、地域や家庭の教育力向上を支援している。	実行委員の計画による実施を支援
	公民館講座	地域課題の解決と仲間づくりを目的としたボランティアを活用した連続講座を幅広く実施する。	年間計画により実施
	自治公民館活用事業	自治公民館を地域の学習拠点にすることを目的として、生涯学習や家庭教育に精通した指導者を地域に派遣し、学習グループ設立や孤立した家族を援助する。	自治公民館を会場に実施
図 書 館	子ども読書活動の推進	<p>ブックスタートを始めとする、全ての子どもがあらゆる場面で本にふれる機会の提供と読書活動の推進。</p> <p>あかちゃんタイム等の導入による、小さいお子さんとその保護者の利用促進。</p>	年間計画により実施
	自主活動グループの育成	図書館を中心に活動するボランティアの支援・育成を行う。また、ボランティアによるお話し会などを実施している。	随時支援
	電子図書館の充実	平成28年1月から、非来館型サービスである電子図書館を導入。小説や絵本、3D図鑑等の電子書籍を提供している。	年間計画により導入
ミ ュ ジ ア ム	展示活動	常設展（荒井寛方室、野口雨情コーナー、自然・歴史・文化展示室、鋸展示室）、企画展、巡回展等の開催	年間計画により実施
	講座等	ギャラリーコンサート、講演会、講座、体験学習、見学会などの実施。	年間計画により実施
	市民ギャラリーの活用	市民の美術工芸作品等の展示	市民の申し出により実施

また、スポーツ振興課においても、市民体育祭やさくら市マラソン大会、ウォーキング等の各種スポーツ教室、プールの開設など多くの事業を実施しています。

第4節 生涯学習に関する市民の意識調査

1 調査概要と回答者属性

さくら市では、第二次生涯学習推進計画の策定に向けて、平成27年10月から11月にかけて「第二次さくら市生涯学習推進計画の策定に係る市民意識調査」を実施しました。

調査対象者：さくら市内在住の成人2,000人（20代～70歳以上）

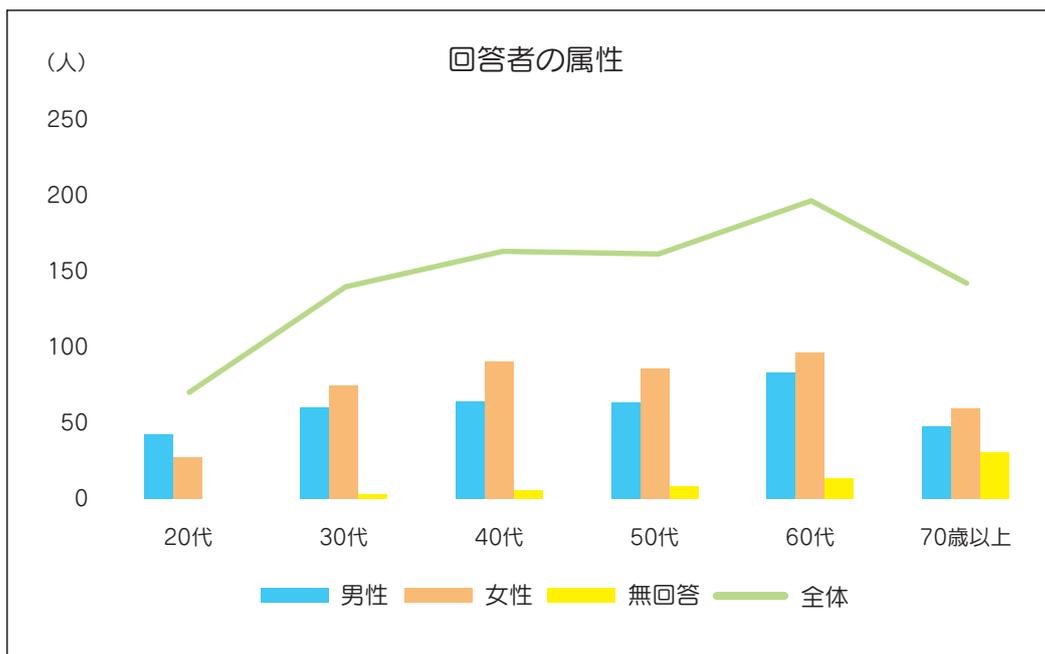
調査方法：郵送配布及び郵送回収

回収結果：

発送数	回答者数	回収率
2,000人	894人	44.7%

回答者の属性 (単位：人)

年代	全体	男性	女性	無回答
20代	71	43	28	0
30代	141	61	77	3
40代	164	66	91	7
50代	162	65	87	10
60代	198	85	98	15
70歳以上	143	49	61	33
合計	894	370	443	81



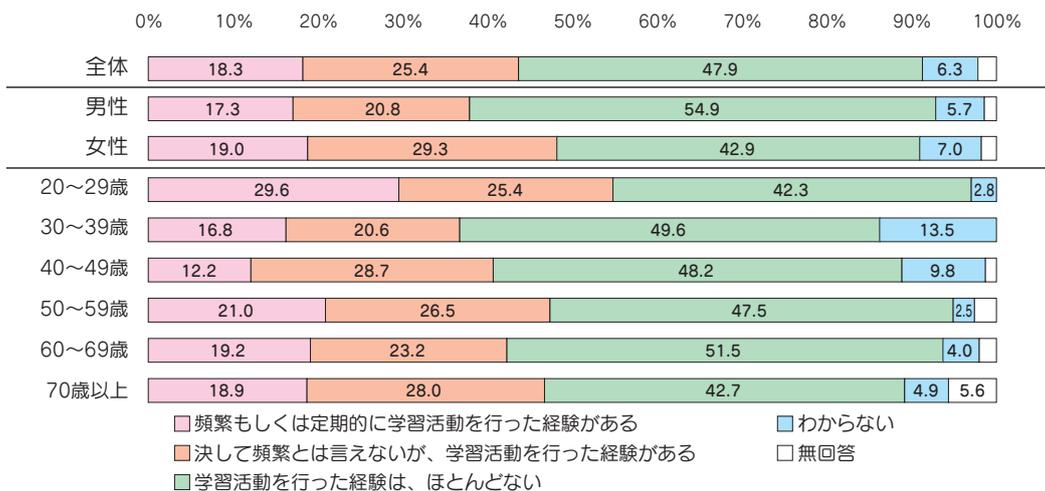
2 調査結果の概要

(1) 学習状況と学習意欲

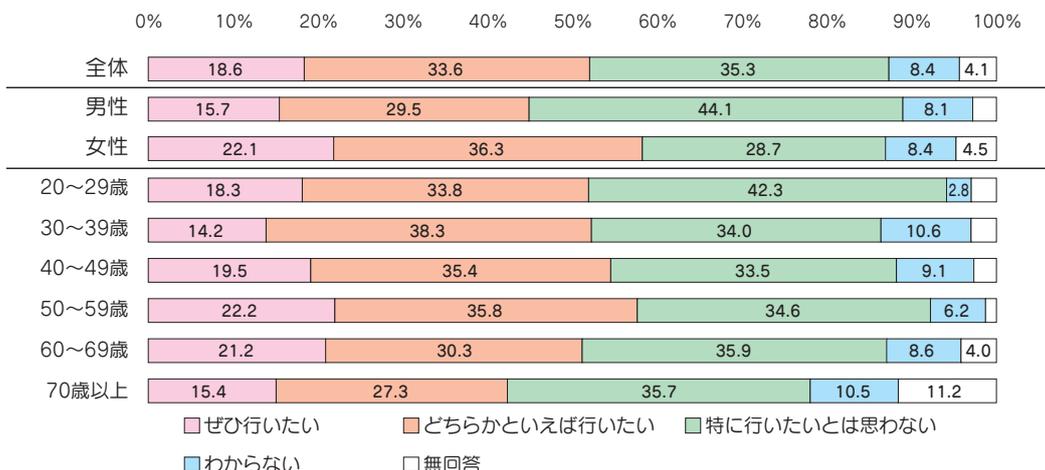
これまでに、学校教育以外の学習を行った経験がある市民は、「頻繁もしくは定期的に経験がある(18.3%)」「頻繁とは言えないが経験がある(25.4%)」を合わせると、全体の43.7%です。男性よりも女性のほうが10ポイント高いことが確認できます。また、20代の55.0%が学習経験があると回答しており、他の世代より高いという特徴がみられます。

今後の学習活動に対する意欲は、「ぜひ行いたい(18.6%)」「どちらかといえば行いたい(33.6%)」を合わせると52.2%であり、回答者の半数以上が今後の学習に意欲があることがわかります。また、女性のほうが13ポイント高く、年齢別では50代が一番高いという傾向がみられます。

問4 あなたは、現在活動中のものも含めて今までに、正規の学校教育以外で学習活動（文化・芸術活動、スポーツ・レクリエーションなどの趣味や教養的な活動も含む）を行った経験がありますか。以下の項目のうち、最も近いと思われるもの1つに○をつけ、その学習活動の内容や方法等をお書きください。



問6 あなたは、今後の生活の中で何らかの学習活動（文化・芸術活動、スポーツ・レクリエーションなどの趣味や教養的な活動も含む）を行っていきたいと考えていますか。今後5年以内を目途として、以下の項目のうち最も近いと思われるもの1つに○をつけてください。

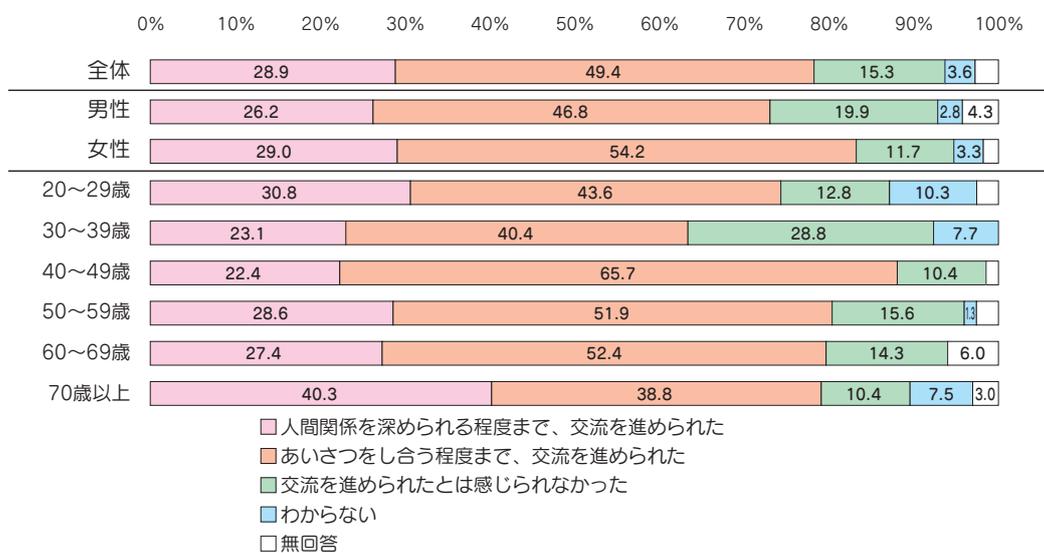


(2) 学習活動を通じた交流の経験と意欲

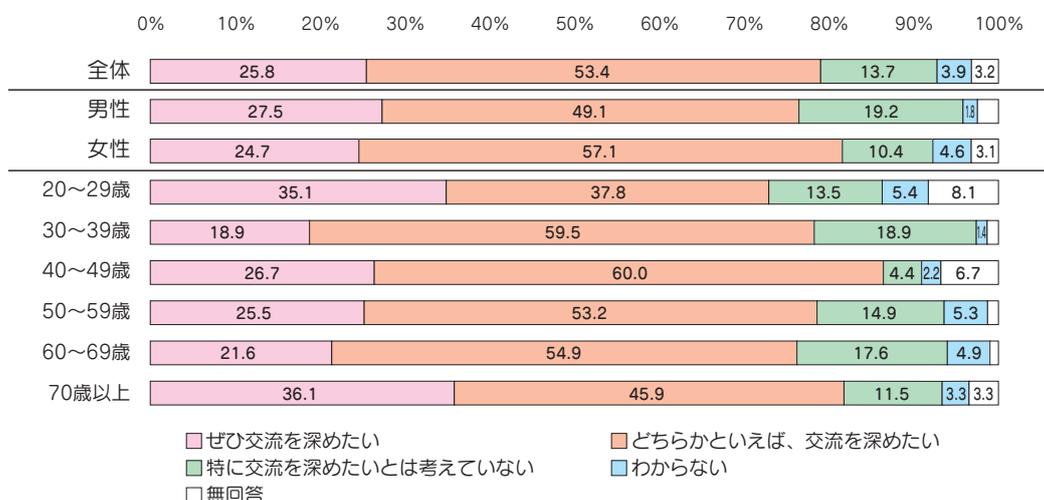
前記の学習経験がある人たちを対象に「学習を通して他の市民と交流することができたか」を尋ねたところ、「人間関係を深められる程度まで交流を進められた（28.9%）」「あいさつをし合う程度まで交流を進められた（49.4%）」を合わせて、78.3%が交流を深められたと回答しています。

また、今後の学習活動に対して意欲がある人の79.2%（「ぜひ」25.8%、「どちらかといえば」53.4%）が、活動を通して交流を深めたいと答えており、学習活動を通じた交流への意欲も高いことがわかります。

問5 問4で①、②を選んだ方にお聞きします。あなたは、学習活動（文化・芸術活動、スポーツ・レクリエーションなどの趣味や教養的な活動も含む）を通して、他の市民の方と交流を進めることができましたか。以下の項目のうち、最も近いと思われるもの1つに○をつけてください。



問7 問6で①、②を選んだ方にお聞きします。あなたは、学習活動（文化・芸術活動、スポーツ・レクリエーションなどの趣味や教養的な活動も含む）を通して、今後、他の市民の方と交流を深めたいと考えていますか。以下の項目のうち、最も近いと思われるもの1つに○をつけてください。



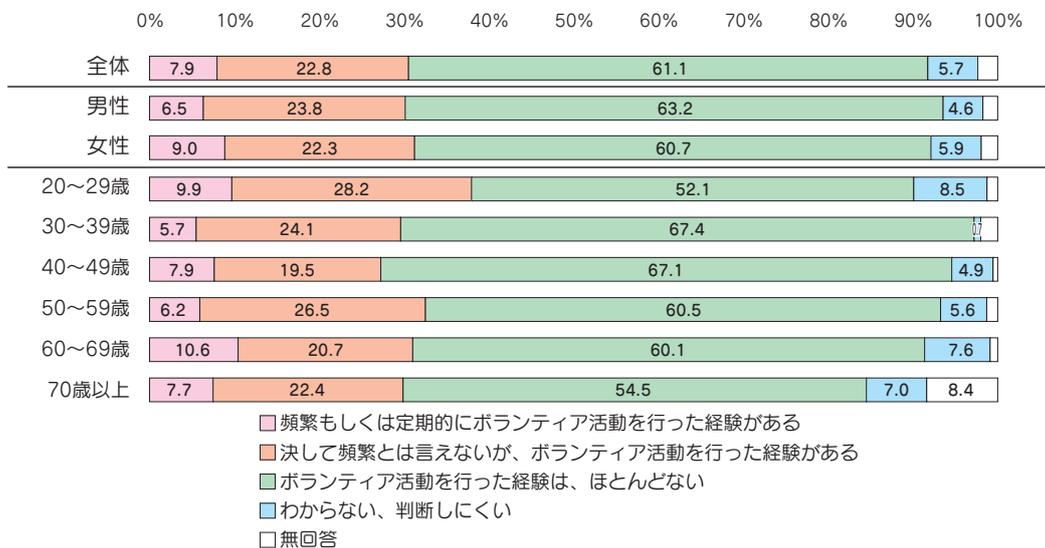
(3) ボランティア活動

これまでのボランティア活動の経験について尋ねたところ、「頻繁もしくは定期的にボランティア活動を行った経験がある」「決して頻繁とは言えないが、ボランティア活動を行った経験がある」と答えた割合は、どの年代も30%前後を示しており、市民の3人に1人はボランティアの経験があり、20代が一番多く38.1%、次いで50代が32.7%という結果になりました。

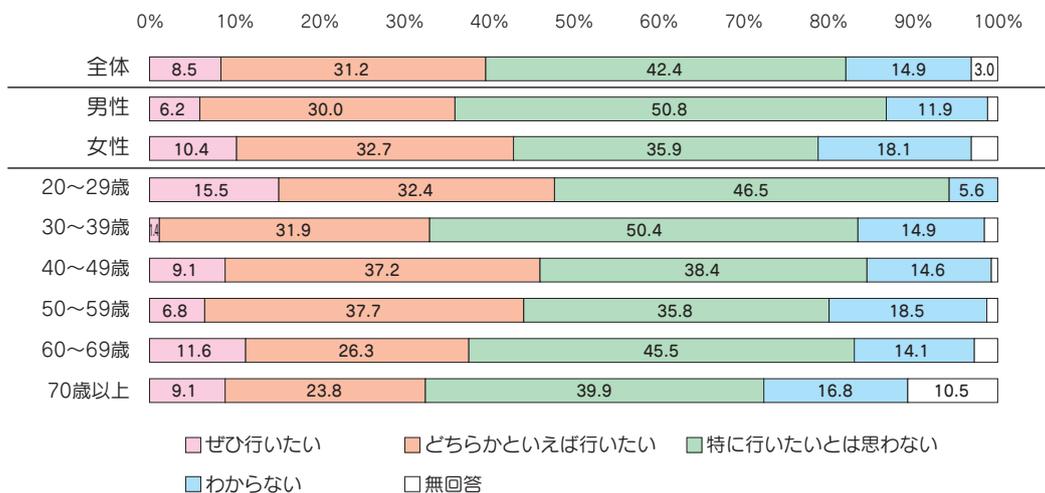
今後のボランティア活動への意欲も、20代が一番高く「ぜひ行いたい(15.5%)」「どちらかといえれば行いたい(32.4%)」を合わせると、47.9%となっています。

問10 あなたは、現在活動中のものも含めて、今までに何らかのボランティア活動を行った経験がありますか。以下の項目のうち、最も近いと思われるもの1つに○をつけ、そのボランティア活動の内容をお書きください。

「ボランティア活動」とは、金銭的報酬を特に求めることなく、地域や社会のために時間や労力、知識や技能を自発的に提供する活動のことをいいます。



問11 あなたは、今後の生活の中で何らかのボランティア活動を行っていきたいと考えていますか。今後5年以内を目標として、以下の項目のうち、最も近いと思われるもの1つに○をつけ、その理由をお書きください。



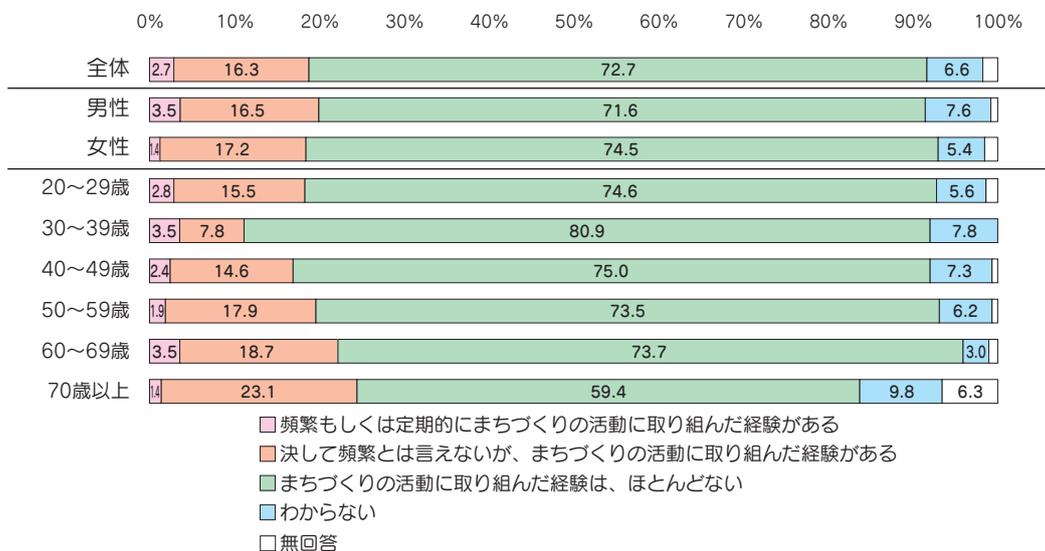
(4) まちづくり活動

まちづくり活動の経験については、20代を除いて、年代が上がれば上がるほど経験がある人が増えるという結果になりました。また、まちづくりの意欲については、40代・50代と60代までが全体の平均をやや上回る30%が意欲的であることがわかりました。

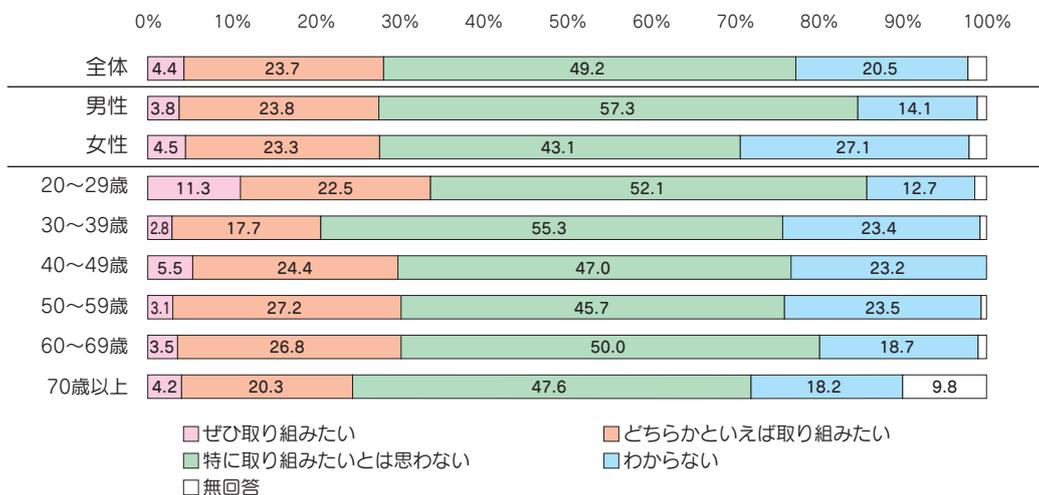
20代については、30代・40代よりも経験者が多い傾向がみられ、まちづくりへの意欲は「ぜひ行いたい」が11.3%と、どの年代より高いポイントを示す結果となりました。

問12 あなたは、現在活動中のものも含めて、今までに「まちづくり」に関する活動に取り組んだ経験がありますか。以下の項目のうち、最も近いと思われるもの1つに○をつけ、その活動内容をお書きください。

「まちづくり」とは、建物や道路等といったハード面はもちろん、歴史・文化などのソフトを保護・改善することによって、さらに住みやすい「まち」とする活動全般のことをいいます。「まちづくり」には、地域社会の活性化や地域住民の交流を目指す「祭り」や「イベント」「地域行事」などを企画運営することも含んでいます。



問13 あなたは、今後の生活の中で「まちづくり」に関するボランティア活動に取り組んでいきたいと考えていますか。今後5年以内を目途として、以下の項目のうち、最も近いと思われるもの1つに○をつけ、その理由もお書きください。

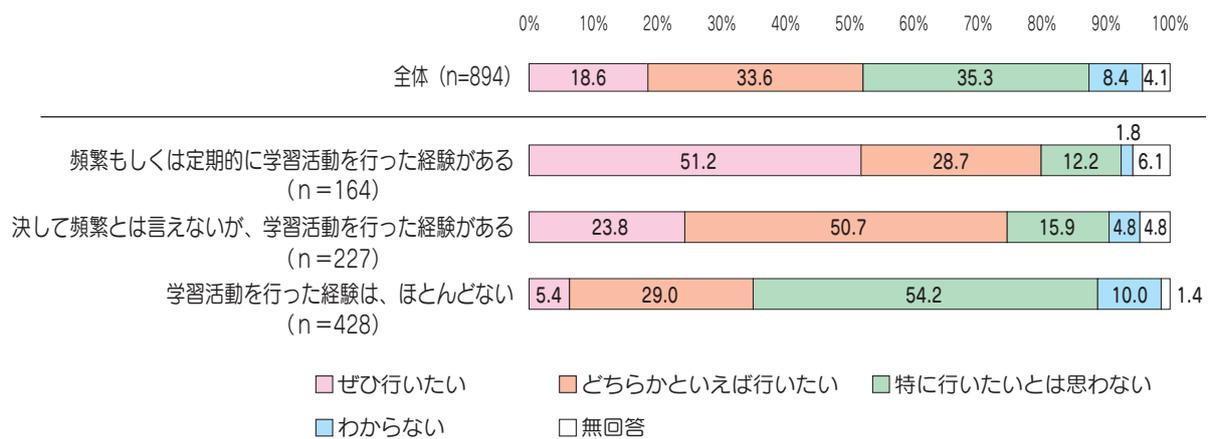


(5) 学習経験と今後の学習意欲

学習経験の有無にかかわらず、今後も学習活動を行いたいかを尋ねたところ、学習経験が多い「頻繁もしくは定期的に経験がある」「頻繁とは言えないが経験がある」と回答した人ほど、今後も学びたいと思っているという結果となりました。

このことは、学びを通して「新たな知識や技術を身に付けることができる」という達成感や満足感に加え、学びあいにより先に挙げたような「他の市民との交流」ができることも要因と考えられます。

学習経験と学習意欲



多くの世代が参加する音楽講座

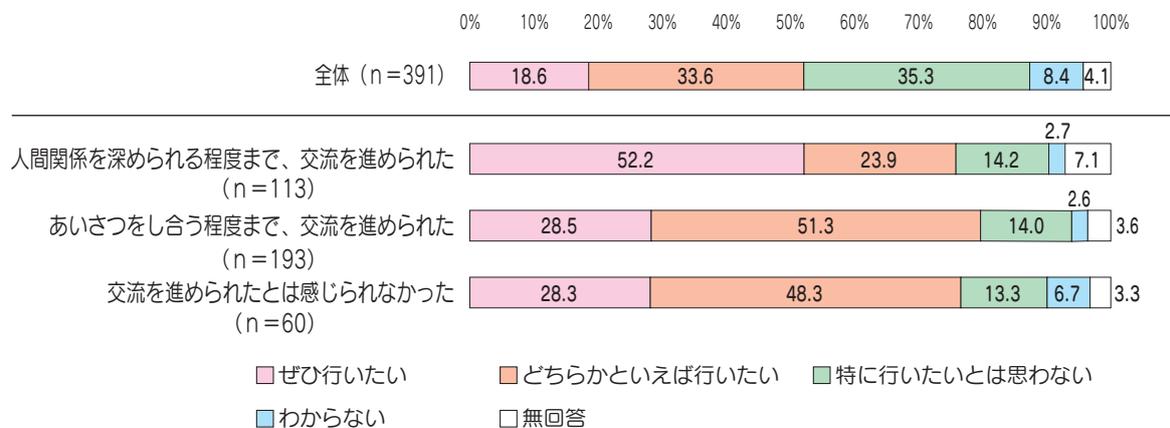
(6) 交流経験と学習意欲・学習意欲と交流意欲

交流経験の有無にかかわらず、今後も学習活動を行いたいか尋ねたところ、「人間関係を深められる程度まで交流を進められた」「あいさつをし合う程度まで交流を進められた」と回答した交流を深められた人ほど学習したいと思っているという結果がでています。

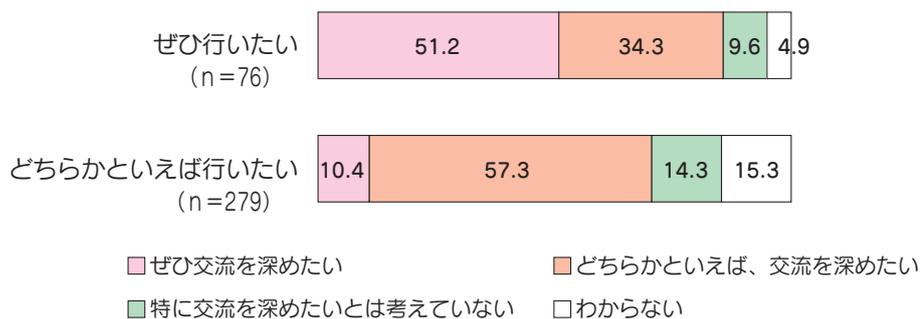
また、今後の学習意欲の問いに「ぜひ行いたい」「どちらかといえば行いたい」と回答した人にも、「学習を通して交流を深めたいか」を尋ねたところ、学習意欲が高い人ほど交流を深めたいと思っていることもわかりました。

このことから、個々の「学び」から複数での「学びあい」へ学習活動が広がることで交流が生まれ、今後の意欲につながっていくことや、交流を求めて学習に参加する人がいることがわかります。

交流経験と学習意欲



学習意欲と交流意欲



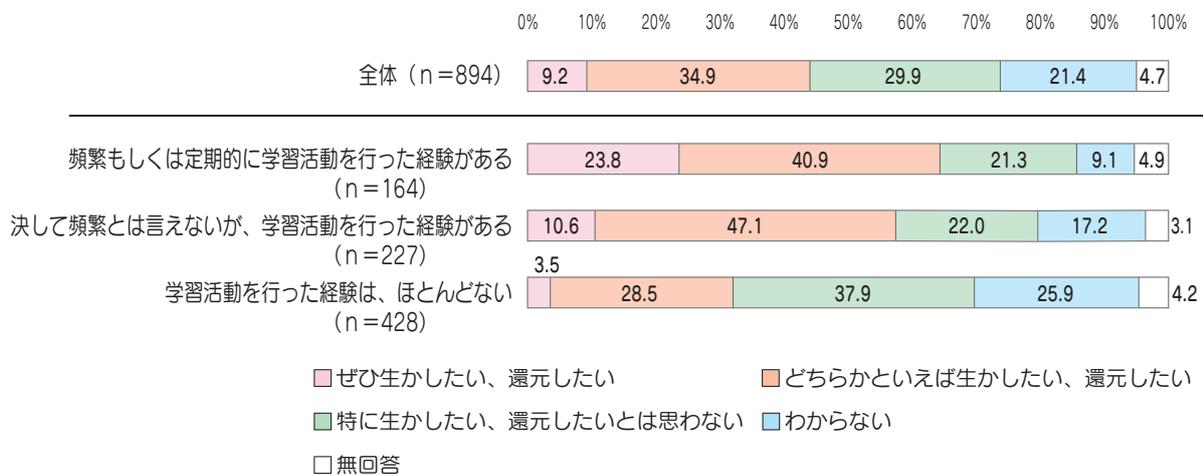
(7) 学習経験・学習意欲と学んだ成果の活用意欲

「自分が学んだことを今後、生かしたり還元したりしたいと思うか」という質問に対しては、学習経験が豊富な人ほど、学んだ成果の活用意欲が高いことがわかりました。また、下段のグラフのように、学習意欲が高い人ほど学んだ成果の活用意欲が高いこともわかりました。

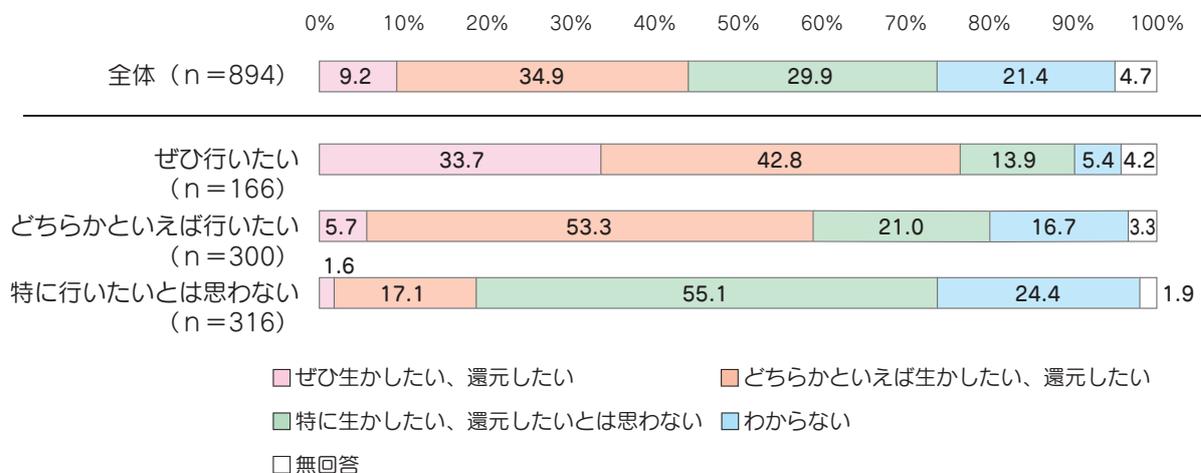
このことは、市民が学ぶ場だけでなく、学んだ成果を生かしたり、還元したりする機会や場を求めている結果だと考えられます。

さくら市では、学んだ成果を発表する場として、ゆめ！さくら博への出店や、でまえ学び塾の講師として登録すること、公民館フレンド講座（公民館での連続講座）の講師などの場を設定しており、希望する市民や団体に対応していますが、今後もこれらの場を充実させていくことが重要となります。

学習経験と学んだ成果の活用意欲



学習意欲と学んだ成果の活用意欲

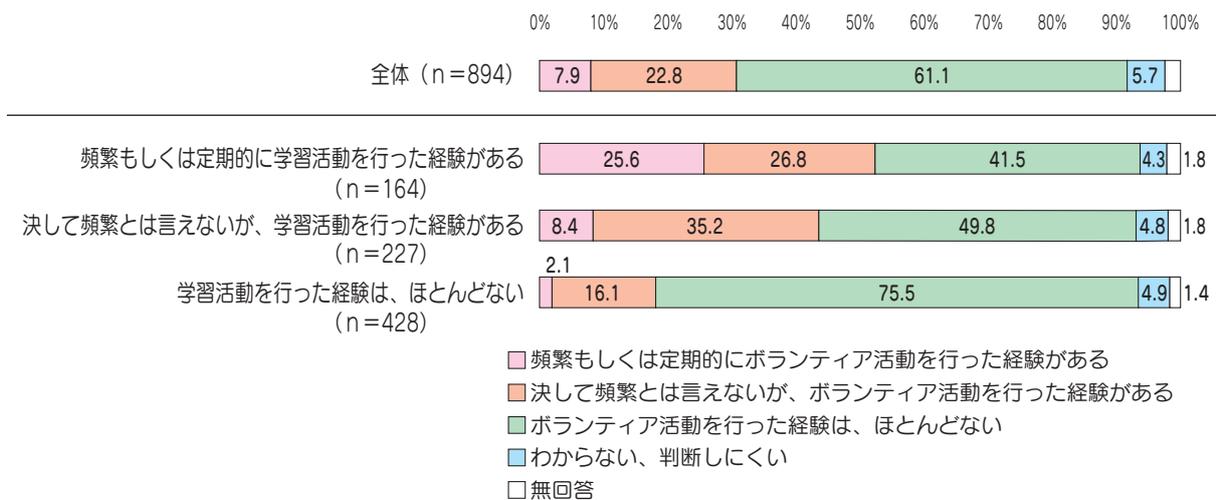


(8) 学習経験とボランティア・まちづくり活動の経験

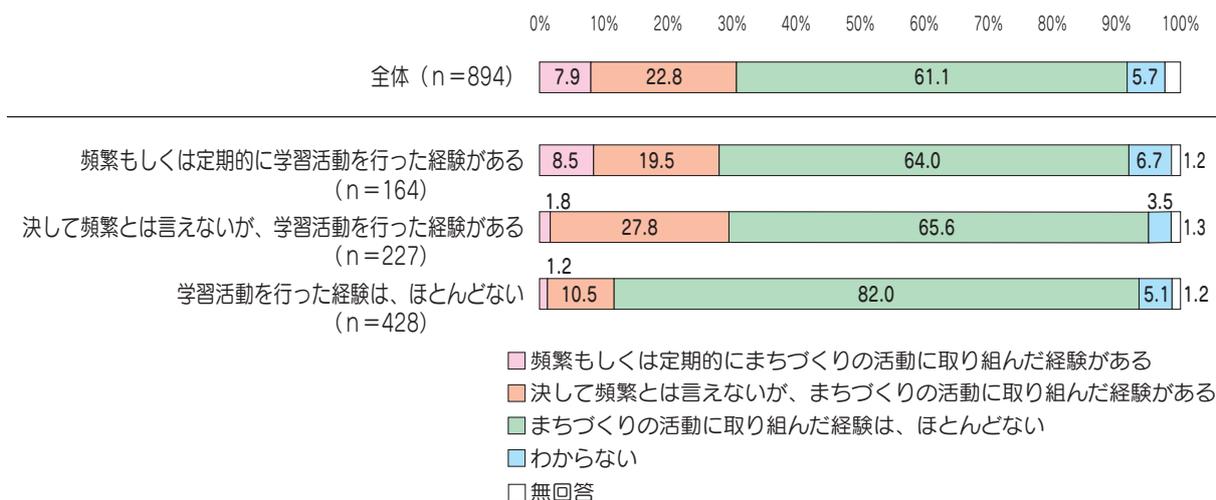
さくら市では、市民が学習の成果を生かしてまちづくりに参画する「市民主役の生涯学習によるまちづくり」を進めてきましたが、市民意識調査の結果を見ると、学習経験の豊富な市民ほど、ボランティア活動やまちづくり活動の経験があることがわかります。

このことから、市民協働のまちづくりを推進するためには、まずは、学びの場に市民が訪れることが第一歩であり、その後に、学んだ成果を活かせるようなボランティア活動やまちづくり活動の場や機会を提供、コーディネートすることが必要であることがわかります。

学習経験とボランティア活動の経験



学習経験とまちづくり活動の経験

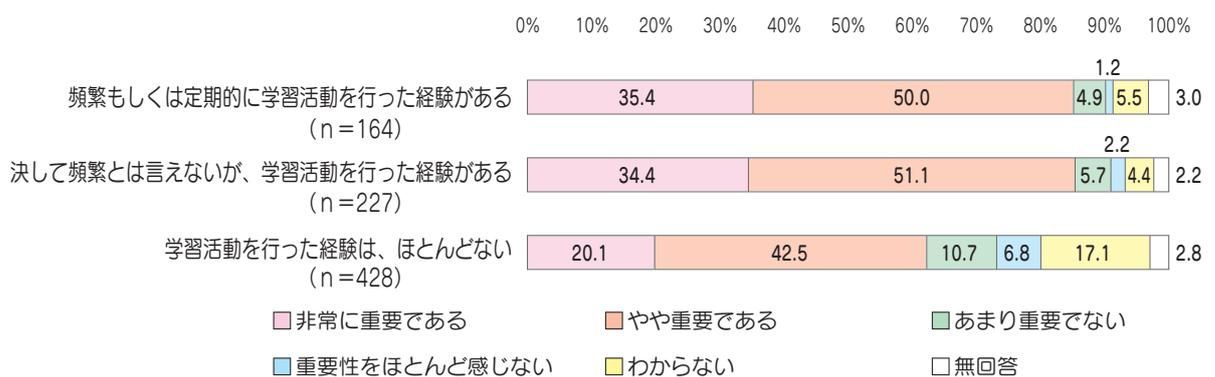


(9) 行政の支援

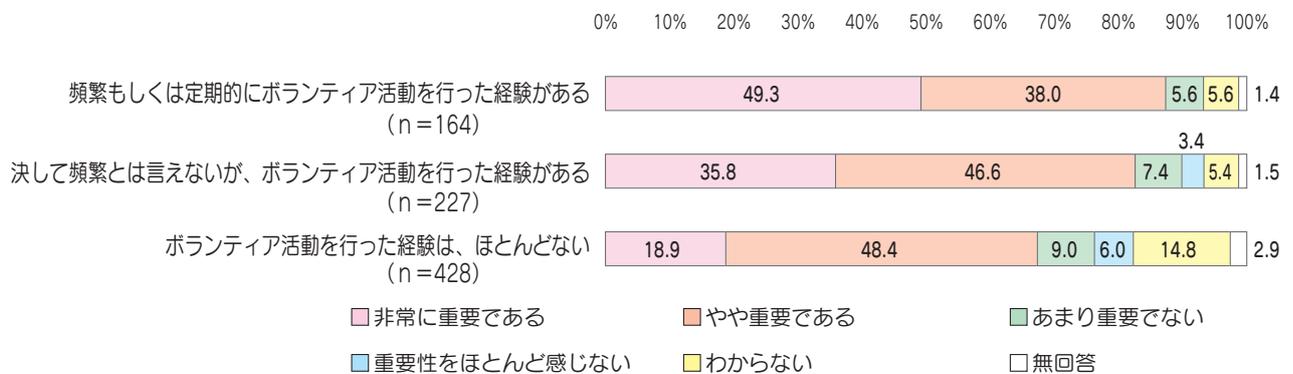
行政支援は、学習活動・ボランティア活動・まちづくり活動のいずれの経験者にとっても、重要であるという結果が出ています。さらに、「非常に重要である」「重要である」を合わせたポイントは、いずれの活動においても経験が豊富な人ほど高くなっています。

このことは、市民が学習活動やボランティア活動・まちづくり活動に取り組むための支援には2種類あり、1つは、活動を開始するまでの支援であり、もう1つは、活動開始後に活動の充実や継続のための支援であるといえます。

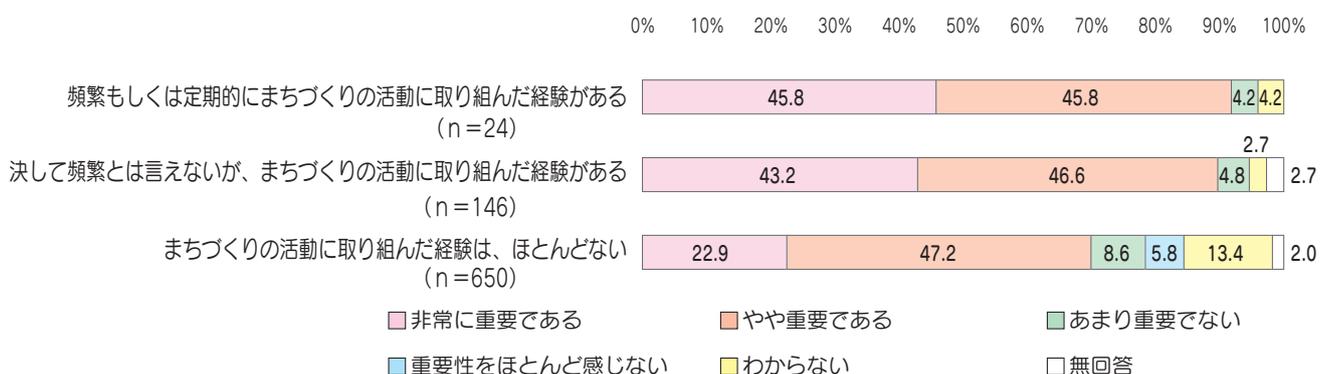
学習経験と行政支援の重要性



ボランティア活動の経験と行政支援の重要性



まちづくり活動の経験と行政支援の重要性



第5節 さくら市の生涯学習を取り巻く課題

これまで、さくら市の生涯学習状況について述べてきましたが、社会が大きく変化し、全国的な人口減少社会に突入した現在、生涯学習によるまちづくりを考える上で、人口構造の変化や大規模災害等にも対応できる安全安心な地域づくりへは、市民と行政が共に手を取り、しっかりとした準備をしていかなければなりません。

こうした中で、今後のさくら市の生涯学習を推進する上での主な課題を整理すると、主として次の3つにまとめられます。

課題1 学びの累積と学習支援方法の転換

これまで、生涯学習課や公民館では、現代的課題や人づくり、まちづくりなどを重点事業として位置づけ、多様な講座や研修会を実施してきました。また、「ゆめ！さくら博」を生涯学習の集大成の場と位置づけ、体験を通じた「入力」、発表や体験の場の提供による「出力」、そして体験や発表を通して人とふれあうことでの「交流」を行うことで、市民の生涯学習への入り口として、また、生涯学習の成果活用の場として開催してきました。

市役所関係各課においても、「ゆめ！さくら博」への健康・環境・消費者・防災等の各部門の出店をはじめとし、様々な講座等を実施して市民への学習機会の提供に努めています。これらの学びは、全てが「広い意味での生涯学習」であり、市役所関係各所は連携を図り、今後も、市民のニーズに対応できるよう多様な学びの機会を提供するとともに、学習時間等に応じた単位制度の導入等も視野に入れた仕組みづくりを検討していく必要があります。

また、今後ますます進む高齢化社会に対応するために、これまでの「市民が学びの拠点（氏家公民館や喜連川公民館等）へ出向く」学習形態から、「市民の元に学びを出前する」学習形態へ転換していくことも考えていく必要があります。そのためには、高齢者や障がい者でも参加しやすい場所として、各自治公民館を生涯学習の拠点として機能させるための仕組みづくりが必要です。

課題2 “まちづくり” 活動へつなげる支援

さくら市ではこれまで、“かきねを越えるまちづくり”を重点プロジェクトに掲げて取り組み成果を上げてきましたが、一方で「まち」の範囲があいまいでわかりにくいという意見も聞かれました。

そこで、第二次計画期間においては、「まち」の範囲を「地域＝行政区」と捉え直し、まずは、顔見知り同士をつなぐことで「地域の輪」を育み、徐々に小学校区などの範囲に広げていくという段階を踏むことで、市民が主体的に地域づくりに取り組めるようにします。その際、各行政区に存在する子ども会育成会や婦人部、体育委員や老人会などの組織や団体が協力し、自治公民館を核として集い、交流することを繰り返すことで、地域の一体感や絆が生まれ、最終的には“まち育み”へとつながっていくように、行政支援を行っていきます。

また、さくら市は小学校区ごとに地域の特色があるので、それらを生かした「生涯学習」や「まち育み」の取り組みも支援していきます。

氏家小学校区	J R氏家駅を中心とした市街地で、中心部には氏家公民館、氏家図書館、氏家体育館などの公共施設、商店街や大型商業施設がある。郊外には住宅地や集合住宅が開発され、転入してくる新住民が増えているため、新住民と旧住民の交流イベントを行っている行政区もある。
押上小学校区	校区内にJ R蒲須坂駅があり、駅前を中心とした市民によるまちづくり活動が行われている。農業が盛んな地域で、稲作以外にもカーネーションやイチゴ栽培なども行われている。児童数は減少傾向にあるが、ボランティア活動やまちづくり活動に参加している住民が多い校区である。
熟田小学校区	稲作を中心とした農業の盛んな地域である。児童数は減少傾向にあるが、平成14年度にスタートした地域住民がスタッフとなり、子どもとの体験活動を通じて地域のつながりを深める「地域プロジェクトSS事業」を現在も継続実施している。
上松山小学校区	元々は農村地域であったが、宅地の開発が進み昭和50年代後半や平成13年頃に児童数が急増したことがある。学校の隣には、市内で最初に児童センターが設置され、子育て中の親子や放課後の子ども達の遊びの拠点になっている。
南小学校区	平成25年以降の住宅地の開発に伴い、子育て世代の転入が多く、児童数が急増している。校区内には、ゆうゆうパークやミュージアム、大型商業施設がある。 また勝山城跡や阿久津河岸など、歴史ある史跡が多く存在し、季節行事や祭り等には地域ぐるみで参加している行政区もある。
喜連川小学校区	小学校の統合により、旧喜連川町全体が学校区となっている。児童数は減少傾向にある。中心部には、喜連川公民館、喜連川図書館、喜連川体育館等の公共施設、歴史ある寺社や建物、温泉等がある。郊外には温泉付き分譲地や別荘地があり、退職後のIターン移住者が多い。ボランティア活動やまちづくり活動をしている住民が多い。

課題3 次代を担う青少年の育成

さくら市では、小中高生のボランティア活動が盛んで、他市町にない特色となっています。小中高生が10代のうちからボランティアとして活動し、多くの体験をすることは、地域で活躍するリーダーとしての資質を養うことになり、次代を担う青少年リーダーの育成にもつながります。

また、小中高生のボランティア活動を充実させるためには、活動を受け入れる市内の各施設や団体等の協力が不可欠です。青少年が参加できる活動を提供し、一緒に活動することを通して、青少年への理解を深めることや、日頃から家庭・学校・地域において、青少年とあいさつを交わしたり、声をかけあったりするなどの交流の機会をつくることで、地域ぐるみで青少年を育成する機運を高めていきます。

さらに、20代以降の市民に対しても、さくら市に愛着を持ち、さくら市にずっと住み続けたいと思えるような「学びあい」「ふれあい」の機会を提供するなど、幅広い支援を市役所関係各課が連携して取り組んでいきます。